

# 薩摩川内市文化財保存活用地域計画 (素案)



薩摩川内市

# 目 次

|       |                    |     |
|-------|--------------------|-----|
| 序 章   | 計画作成の目的            | 1   |
| 第 1 章 | 薩摩川内市の概要           | 6   |
| 第 2 章 | 薩摩川内市の文化財の概要       | 35  |
| 第 3 章 | 薩摩川内市の歴史文化の特性      | 53  |
| 第 4 章 | 文化財に関する既往の把握調査     | 57  |
| 第 5 章 | 文化財の保存・活用に関する将来像   | 65  |
| 第 6 章 | 文化財の保存・活用に関する課題・方針 | 67  |
| 第 7 章 | 文化財の保存・活用に関する措置    | 70  |
| 第 8 章 | 文化財の保存・活用の推進体制     | 75  |
| 資料編   | 市民アンケート            | 79  |
|       | 未指定文化財リスト          | 107 |

## 序章 計画作成の目的

### 1 計画作成の背景と目的

薩摩川内市は、平成16年(2004)10月12日、川内市、樋脇町、入来町、東郷町、せんだいし ひわきちょう いりきちょう とうごうちょう  
けどういんちょう さとむら かみこしきむら しもこしきそん かしまむら  
 祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村が合併し、誕生しました。本土圏域と離島である甕島  
こしきしま  
 圏域からなっています。山・海・川に囲まれた多彩な自然環境の中で、連綿と紡がれた人々の暮  
 らしの中から生まれた多種多様な文化財は、市内各地で「地域の宝」として受け継がれています。  
 その価値を理解し、共有して後世に伝えていくことは、現代に生きる私たちの大切な役割です。  
 しかし、近年、過疎化や少子高齢化が進み、地域における住民同士の繋がりの希薄化などから、  
 文化財の保存や未来への継承が危ぶまれている状況にあります。

国は平成30年(2018)の文化財保護法改正で、文化財行政における中・長期の基本方針を  
 定めるマスタープランと、短期の取組を示すアクションプランを兼ね備えた「文化財保存活用  
 地域計画」を法定計画として位置付けました。

本市誕生後、20年が経過する中で、文化財を観光振興や地域活性化に活用する動きが広まり  
 つつありますが、本市では文化財についての認識がまだ十分ではありません。このような状況  
 に対し、様々な対策を講じるとともに、より多くの市民の方々に文化財の保存・継承に関わっ  
 ていただく必要があります。

このためには、まずは地域住民が身近にある文化財と「知り合う」ことが必要と考え、地域  
 を主体とし、所有者と行政、さらに教育機関、商工観光団体による「地域社会総ぐるみ」で文  
 化財の保存と活用を考えていくスタートとするため、文化財保護法第183条の3に基づき「薩  
 摩川内市文化財保存活用地域計画」を作成しました。

この計画により、文化財の価値を市民で共有し、保存・活用の取組を行うことは、市民意識の  
 向上や地域の誇り、郷土愛の醸成につながります。また、文化財を適切に観光に活用することで、  
 来訪者数の増大が見込まれ、地域経済への好循環が期待されます。このことが、文化財の保存・  
 活用のための再投資につながり、市民だけでなく、多くの人びとに文化財の価値が再認識され  
 ていくと考えられます。文化財を次世代へと継承していくためには、保存・活用の双方の取組が重  
 要であり、それが地域のにぎわい創出につながることを本地域計画の目的として作成しました。

### 2 計画期間

本計画の期間は、上位計画である第3次薩摩川内市総合計画(令和7年度<2025>から令和  
 16年度<2034>)の歩調と連動させるため、令和8年度(2026)から令和17年度(2035)  
 までの10年間とします。

計画期間内に計画の変更を行う必要があるとき、次の内容がある場合は文化庁長官へ変更の  
 認定を受けます。

- ・計画期間の変更
- ・市の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ・地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

これ以外の軽微な変更を行った場合は、変更の内容について、鹿児島県及び文化庁へ情報提供  
 します。なお、地域計画の実施のために第8章に掲げる「文化財の保存・活用の推進体制」のもと、  
 適切に進捗管理を行い、第3次薩摩川内市総合計画の前期基本計画の最終年となる令和11年度  
 (2029)に中間評価、後期基本計画の最終年となる令和16年度(2034)に総合評価を行い、必  
 要な見直し・修正を行って次期の地域計画へと反映させます。

| 年 度                      | 令和7<br>(2025)                          | 令和8<br>(2026) | 令和9<br>(2027) | 令和10<br>(2028) | 令和11<br>(2029) | 令和12<br>(2030) | 令和13<br>(2031)                       | 令和14<br>(2032) | 令和15<br>(2033) | 令和16<br>(2034) | 令和17<br>(2035) |
|--------------------------|--|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|--------------------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 薩摩川内市<br>総合計画            | 第3次薩摩川内市総合計画(前期5か年)<br>令和7年度～令和11年度    |               |               |                |                | 見直し            | 第3次薩摩川内市総合計画(後期5か年)<br>令和12年度～令和16年度 |                |                |                |                |
| 薩摩川内市<br>文化財保存<br>活用地域計画 | 状況に応じて随時見直し                            |               |               |                |                |                |                                      |                |                |                |                |
|                          | 薩摩川内市文化財保存活用地域計画(10か年)<br>令和8年度～令和17年度 |               |               |                |                |                |                                      |                |                |                |                |
|                          |  |               |               |                | 中間<br>評価       |                |                                      |                |                |                | 総合<br>評価       |

図1 薩摩川内市文化財保存活用地域計画の計画期間

### 3 計画の位置付け

#### (1) 関連する計画

本計画は、文化財保護法第183条の3に基づく『市町村の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画』に位置付けられるものです。また鹿児島県の「鹿児島県文化財保存活用大綱」を勘案しました。

本計画は、市政経営の最上位計画である「第3次薩摩川内市総合計画」に紐づく、本市の文化財行政に関わる個別計画の一つに位置付けられます。このほか、上位の計画には「教育振興基本計画」があり、他の「都市計画、景観計画、環境基本計画、農業振興基本計画、地域防災計画、情報化推進計画、公共施設等総合管理計画、生涯学習推進計画、SDGs未来都市計画、国土強靱化計画との連携や、文化財個別の保存活用計画との整合も図ります。

#### (2) 本計画とSDGs

国際連合は、平成27年(2015)に「誰一人取り残さない」という理念のもと、自然環境や社会環境のあるべき姿を示した世界共通の目標として、「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。我が国においても、国家戦略として「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針改定版」を策定し、地方自治体に対してもSDGs達成に向けた取組の促進を求めています。

本市は、SDGsにおける「誰一人取り残さない」との理念の下、経済、社会、環境の三側面における総合的な取組を推進するため、令和3年(2021)6月8日に「薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言」を行いました。これを踏まえて、未来に向けて豊かで活力ある地域社会を創造していこうとする提案内容が評価され、令和4年(2022)

5月20日に内閣府に「SDGs未来都市」(地方創生SDGsの達成に向けて、優れたSDGsの取組を提案する地方自治体)に選定されました。今後も「SDGs未来都市計画」に基づき、SDGsの達成に向けて取組を推進していきます。文化財の保存・活用においても、都市としての発展や経済成長と文化財の継承を両立し、持続可能な取組が求められます。



図2 薩摩川内  
SDGs チャレンジロゴマーク

本計画に関連する SDGs の目標は、「4. 質の高い教育をみんなに」「11. 住み続けられるまちづくりを」「14. 海の豊かさを守ろう」「15. 陸の豊かさを守ろう」です。

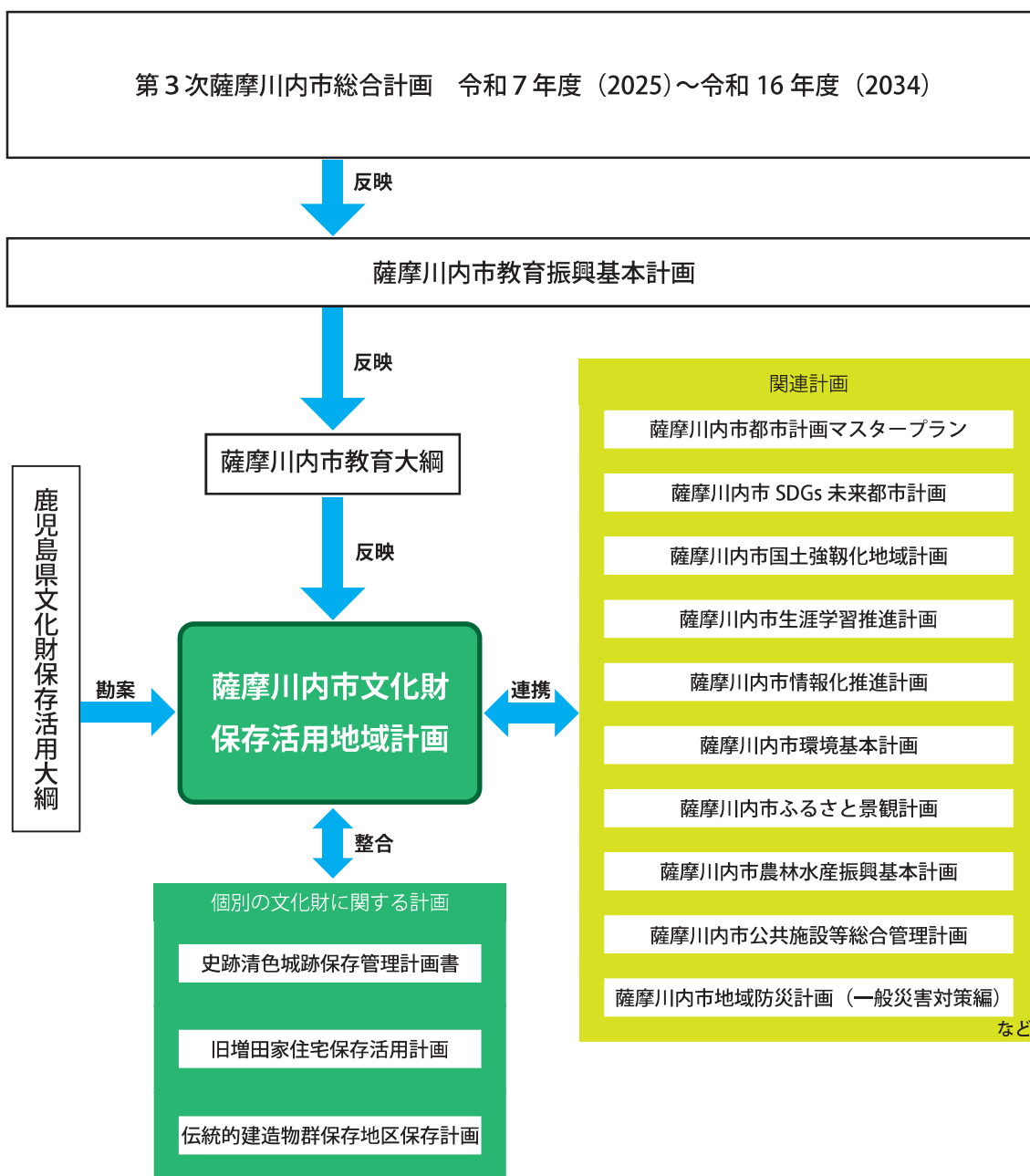


図3 関連計画との関連性

#### 4 本計画における文化財の定義

「文化財」とは、文化財保護法第2条に定義された、「有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群」の6つの類型を指します。文化財のうち、一定の基準を満たしたものが、手続きを経て指定や登録を受けた「指定等文化財」となります。指定や登録は、国、都道府県、市町村が、文化財保護法や地方自治体の文化財保護条例の規定によって行っています。また、文化財保護法では、第92条で「土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）」を、第147条で「文化財の保存に欠くことのできない伝統的な技術又は技能(文化財の保存技術)」

を保護の対象としています。

本計画では、指定の有無に関わらず、上記の6つの種類の文化財、埋蔵文化財、保存技術を対象にします。また、これまでの文化財の類型にはあてはまらないものの、本市の歴史や文化、自然などの特徴を物語る様々な要素や、地域で大切に継承されてきた、又は日常的に親しまれている様々な資源についても、「その他の資源」として、本計画の対象とします。本計画において対象とするこれらを「文化財」と定義します。

# 本計画における文化財

## 文化財保護法が対象とする文化財

指定等文化財

未指定文化財

文化財保護法第2条の6類型

### 有形文化財

建造物、美術工芸品

### 記念物

遺跡、名勝地、動物・植物・地質鉱物

### 無形文化財

演劇、音楽、工芸技術等

### 文化的景観

棚田、里山、用水路等

### 民俗文化財

衣装、民俗芸能、民具等

### 伝統的建造物群

宿場町、城下町、農漁村等

### 埋蔵文化財

土地に埋蔵されている文化財

### 文化財の保存技術

文化財の保存に必要な技術

## その他の資源

地名

伝説

等

図4 文化財の体系図

## 第1章 薩摩川内市の概要

### 1 自然的・地理的環境

#### (1) 位置及び地勢

薩摩川内市（以下、本市）は、鹿児島県の北西部に位置し、北は阿久根市及び薩摩郡さつま町に、南は鹿児島市、日置市、いちき串木野市に、東は姶良市に接しています。また西は東シナ海に面し、上甕島、中甕島、下甕島及び属島群で構成される甕島列島（以下、「甕島」とする。）があります。これらを含めた市域は東西 81.0km、南北 38.79kmで、東西に長い形をしており、その面積は 682.92km<sup>2</sup>（令和 5 年〈2023〉7 月 1 日時点）に及び、県内で最大です。

本市は、平成 16 年（2004）10 月 12 日に、川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村の 1 市 4 町 4 村が合併して誕生しました。市の中心部には一級河川である川内川が流れており、それをまたぐように国道 3 号、南九州西回り自動車道、肥薩おれんじ鉄道、JR 鹿児島本線、九州新幹線などが通っています。その周辺に市街地が形成されています。

本市は県都鹿児島市まで約 40km の距離にあり、自動車では国道 3 号を利用して約 50 分、九州新幹線川内駅から鹿児島中央駅まで約 11 分と、交通の便にも優れています。

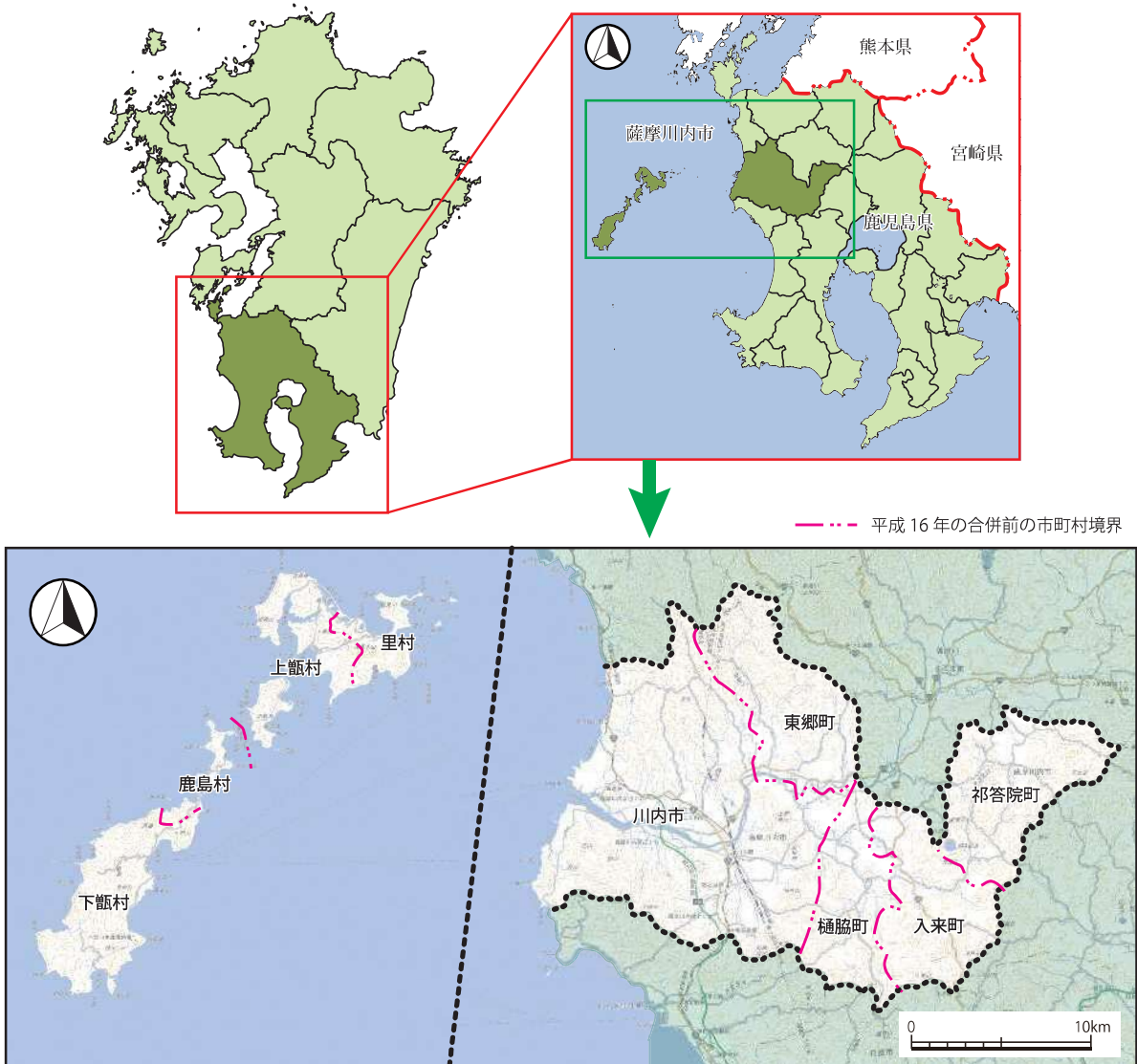


図5 薩摩川内市の位置（国土地理院電子地形図を加工して作成）

## (2) 地形と地質

本市は、山地が海岸部まで迫っているため平地が少なく、山地が全面積の約7割を占めています。市の中央部には、東から西へ川内川が流れ、その流域に沿って集落や市街地が形成されています。甕島を構成する各島は急峻な山地で平野部は沿岸部にわずかにあるだけです。

上甕島の北部には、長さ4km、幅40～100mの砂礫層が発達してできた潟湖群（海鼠池、貝池、鋤崎池、須口池）が分布しています。

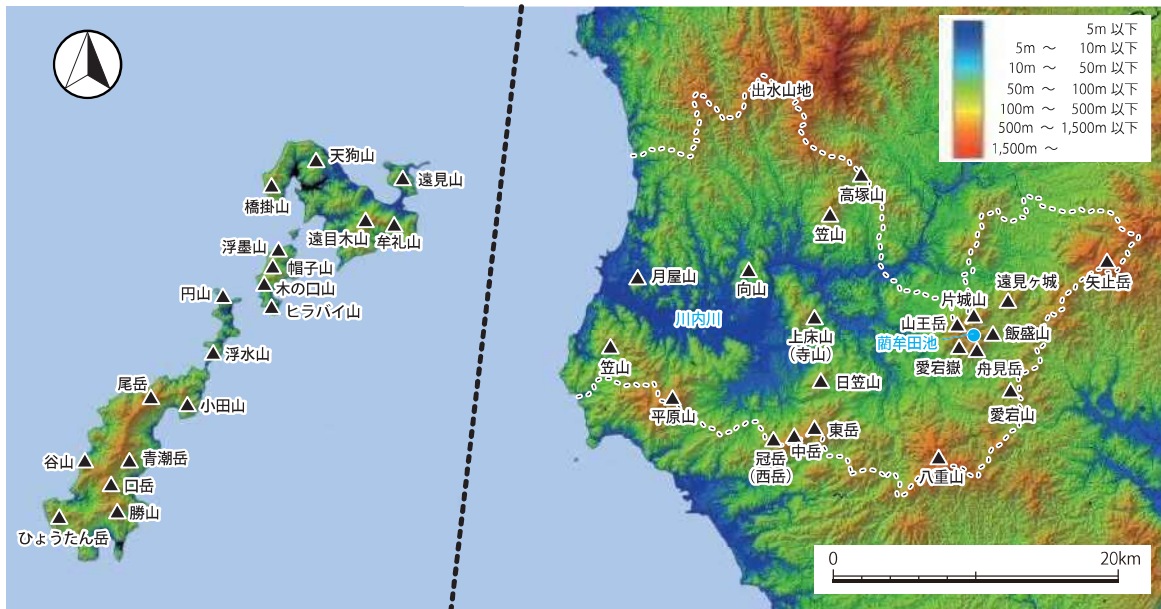


図6 薩摩川内市の地形（国土地理院色別標高図を加工して作成）

### 1) 地質

本市の地質は古生界・中生界・新生界の岩体が分布していますが、そのほとんどが各種火山岩の重畳からなります。

本市の中央部を東西に流れる川内川の左岸は、玄武岩・輝石安山岩・角閃石安山岩及び軽石流の火山岩が分布しています。右岸は石灰岩、チャートを中心とした川内古生層、頁岩・砂岩などの中生層、輝石安山岩・角閃石安山岩及び軽石流の火山岩が分布しています。特に川内川河口右岸に位置する月屋山は石灰岩の産出地として著名です。

両岸の各集落は、沖積層が発達しています。本地域内に連なる山岳はほとんど全部が各種火山岩の重畳からなり、深成岩や変成岩は全くなく、堆積岩類は局所的に見出されます。平ノ山・上床山（寺山）は玄武岩体による溶岩台地です。溶結凝灰岩は市街地の周辺その他に分布し、串木野輝石安山岩の上に載り、川内玄武岩類によって覆われています。河岸には軽石質砂礫層がみられ、俗に二次シラスと呼ばれる層が発達しています。始良火山の活動は第四紀更新世第四氷期に起こったといわれており、多くのシラス台地がみられます。表層地質は、河川流域や平野が砂礫粘土を中心とした堆積岩、本土北部が砂岩・頁岩・礫岩などの堆積岩、山地が安山岩を中心とした火成岩類で構成されています。甕島北部は堆積岩類、中央部は砂岩・頁岩・礫岩などの堆積岩類、南部は花崗岩類を中心に構成されています。

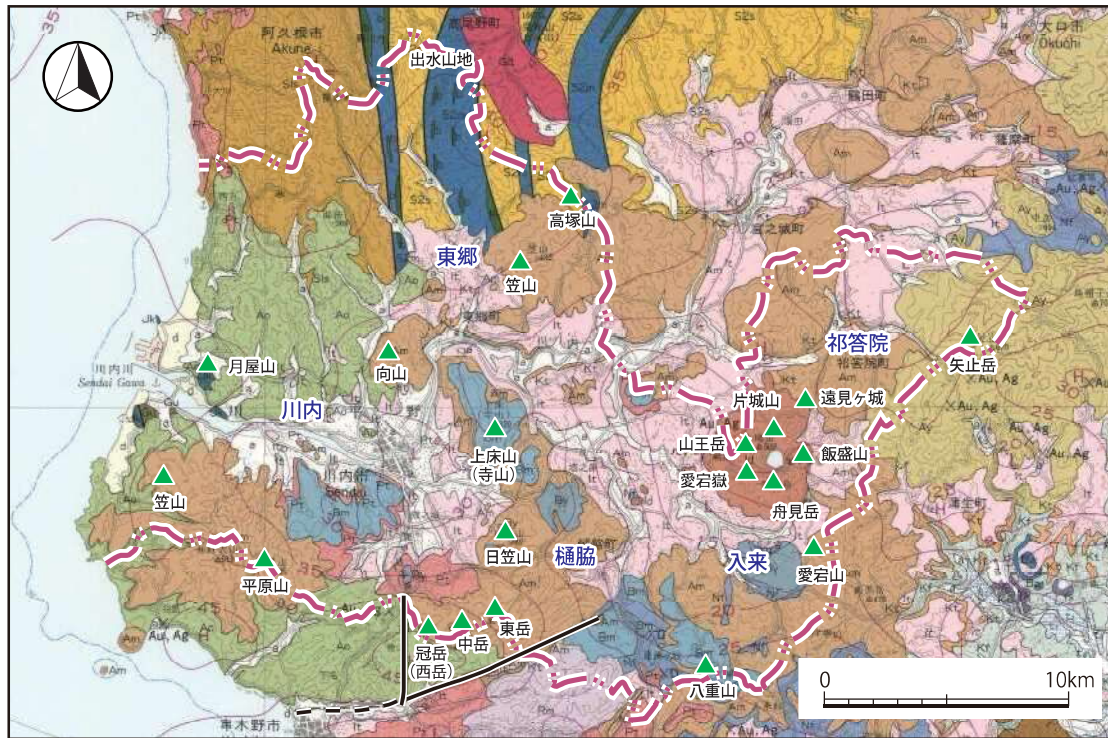
甕島の地質は、後期白亜紀の変成岩類、後期白亜紀の堆積岩及び花崗岩類、始新世の堆積岩類、中中新世の貫入岩類、中新世 - 鮮新世の火山岩類、第四紀の火山岩類及び堆積物からなります。平成20年（2008）には、下甕島鹿島の約8,000万年前の白亜紀後期の地層から、肉食恐竜の肋骨や歯の化石が発見され、平成23年（2011）には植物食恐竜の化石も発見されました。

また、上甌島、下甌島の西部及び下甌島の南部の海岸には、切り立った海食崖地形が広がっています。平成21年(2009)には、下甌島の鹿島断崖にみられる「甌島の白亜紀-古第三紀層」が日本の地質百選に、平成24年(2012)には、「甌島の鹿の子断層」が日本の地質構造百選に選定されています。

## 2) 山地及び河川

本市は、川内川流域の川内平野を除くと、市の周囲には山地が広がっています。鹿児島市との市境に八重山(676.8m)、始良市との市境に矢止岳(669.6m)といった、標高600mを越える山があります。また、市の東部に位置する藺牟田池は、飯盛山(432m)、舟見岳(498.4m)、愛宕嶽(446m)、山王岳(491m)、片城山(508.5m)、遠見ヶ城(474m)の6つの山に囲まれています。市の北部には高塚山(349.5m)、笠山(431.5m)があります。市の中心部には上床山(寺山)(310.2m)、向山(185.7m)があります。市の西部には笠山(341.5m)、石灰岩を産出する月屋山(160m)などがあります。

市内を流れる河川は、一級河川の川内川(全長約137km、流域面積約1600km<sup>2</sup>)、樋脇川、高城川、久富木川、田海川、市比野川、隈之城川、後川内川、麦之浦川、百次川、平佐川、樋渡川、



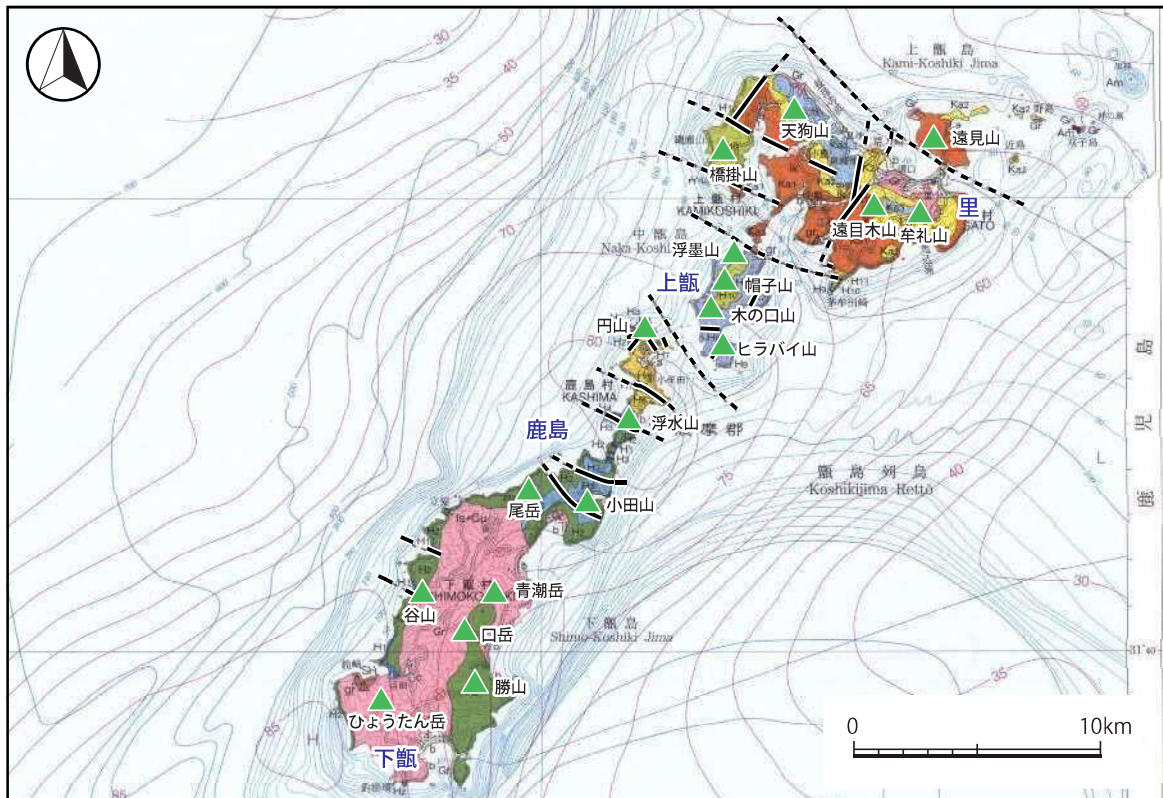
|    |                         |     |                     |     |                  |
|----|-------------------------|-----|---------------------|-----|------------------|
| a  | 砂及び泥                    | Rm  | 流紋岩溶岩及び火砕物          | d   | 砂                |
| Pt | デイサイト溶結凝灰岩              | lt  | 紫蘇輝石流紋溶火山及び軽石       | Nf  | 泥、砂及び礫(火砕物を含む)   |
| Kt | 角閃石輝石デイサイト溶結凝灰岩         | Ao  | 安山岩、デイサイト溶岩及び火砕物    | ld  | 安山岩、デイサイト溶岩及び火砕物 |
| b  | 苦鉄質火山岩及び赤色泥岩、ときにチャートを伴う | By  | 玄武岩、安山岩溶岩及び火砕物      | S2m | 泥岩を主とし、砂岩を伴う     |
| Ay | 安山岩、デイサイト溶岩及び火砕物        | Sls | 砂岩を主とし、泥岩及びまれに礫岩を伴う | Bm  | 玄武岩溶岩及び火砕物       |
| Gu | 砂岩、礫岩及び泥岩               | Am  | 安山岩、デイサイト溶岩及び火砕物    | Jk  | 泥岩、砂岩、石灰岩及びチャート  |

断層(破線部は伏在)

図7 薩摩川内市本土の地質  
(産業技術総合研究所地質調査総合センター、20万分の1地質図「鹿児島」を使用し、加筆したものである)

だいおうがわ  
大王川などがあります。

本土から西方約30kmの東シナ海上には上甌島、中甌島、下甌島及び属島群で構成された甌島列島があり、海食崖、潟湖群などの特徴を有しています。甌島を構成する各島はいずれも急峻な山地で平野部は沿岸部にわずかにあるのみです。上甌島は遠目木山(422.7m)を最高峰とし、標高200mから300mを超える山々が点在しています。中甌島は北から浮墨山(272.1m)、帽子山(296m)、木の口山(293.6m)の200mを超える山々が連なっています。下甌島は尾岳(603.7m)を最高峰とし、標高300mから500mを超える山々がそびえています。



|                           |                                 |                   |
|---------------------------|---------------------------------|-------------------|
| b 円礫及び砂(礫岩を含む)            | H10 砂岩, 砂岩泥岩互層及び礫岩              | a 泥, 砂及び礫         |
| H9 泥岩及び砂岩泥岩互層             | c 礫, 砂及び岩屑                      | H7 砂岩優勢砂岩泥岩互層     |
| Gr 花崗閃緑岩, 石英閃緑岩及び花崗岩      | SH 礫岩, 砂岩及び泥岩                   | H6 砂岩及び砂岩優勢砂岩泥岩互層 |
| Ka3 泥岩砂岩互層及び泥岩            | H5 泥岩及び泥岩優勢砂岩泥岩互層(凝灰岩を含む)       | H1 泥岩優勢砂岩泥岩互層     |
| H4 砂岩及び砂岩優勢砂岩泥岩互層         | Ka1 礫岩, 砂岩, 泥岩及び赤色泥岩(凝灰岩の薄層を含む) |                   |
| H3 泥岩及び泥岩優勢砂岩泥岩互層(凝灰岩を含む) | H11 泥岩, 砂岩泥岩互層及び泥岩礫岩(凝灰岩の薄層を含む) |                   |

図8 甌島列島の地質

(産業技術総合研究所地質調査総合センター、20万分の1地質図「甌島及び黒島」を使用し、加筆したものである)

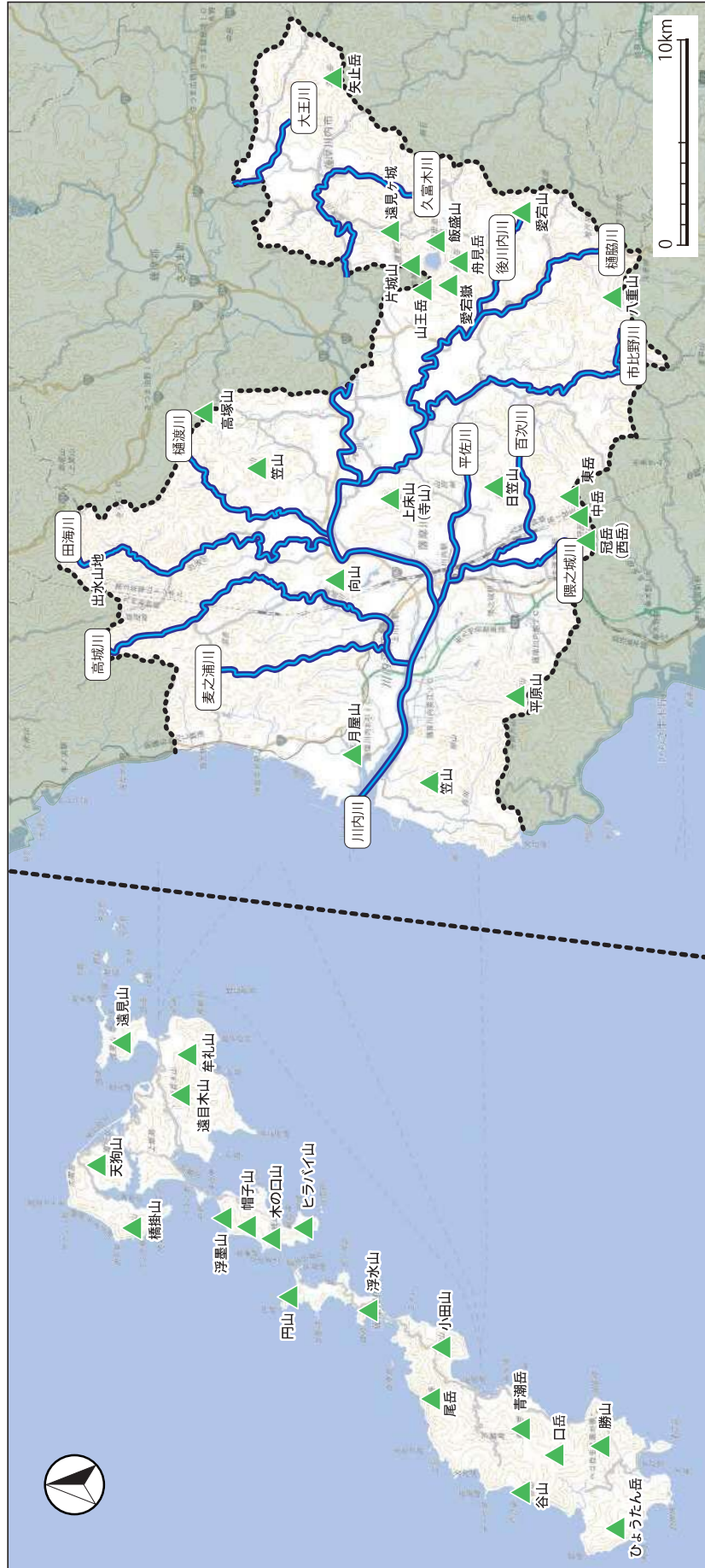


図9 薩摩川内市の主要河川及び山の位置 (国土地理院電子地形図を加工して作成)

### (3) 気象

本市の気候は、内陸部は内陸性気候、甕島は海洋性温帯気候に属しており、比較的温暖で降水量が多い傾向があります。気象観測データによると、本土圏域（川内）は平成3年（1991）から令和2年（2020）までの30年間の年平均気温が17.1℃、年間平均降水量が2,368.8mmです。甕島（中甕）は年平均気温が18.4℃、年間平均降水量が2,429.7mmです。

月別の気温が最も高いのは8月で、本土圏域の平均気温は27.6℃、最も低いのは1月で、平均気温は6.6℃です。また、甕島も同様で、8月の平均気温が28.0℃、1月の平均気温が9.4℃です。年間を通じて比較的温暖な気候です。

本土圏域は、地形が盆地状をなしているため、冬季は降霜が起りやすく、川内川による霧が発生し、日照時間が少ない状況となっています。甕島は、夏季は台風による塩害を受けることがあり、冬季は季節風が強いものの、降霜の発生はほとんどありません。

また、晩秋から初春にかけての寒気期には、川内川流域の内陸部で晴れて風が弱く冷え込んだ朝に発生する霧が川内川上空に集まり、川の流れに沿って河口へと流れていく「川内川あらし」と呼ばれる現象が発生します。これは、特徴的な地形と特定の天気、湿度、風速といった気象条件が重なった時に起きる希少な現象です。

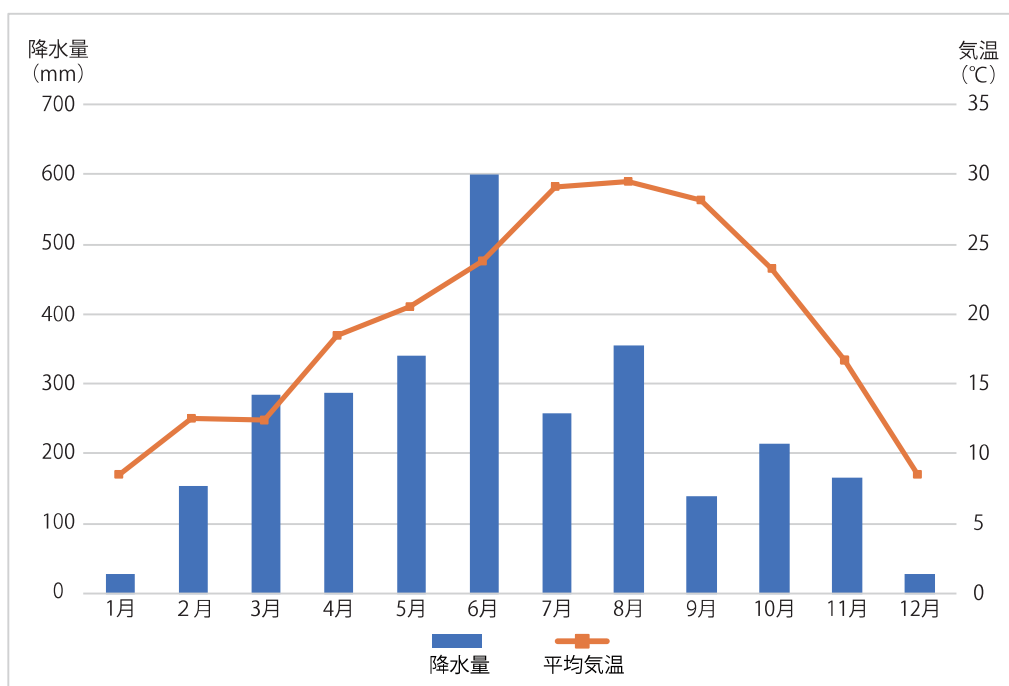


図10 令和6年（2024）の薩摩川内市の平均気温及び降水量  
（気象庁川内地域及び中甕地域気象観測所データより作成）

### (4) 生態系

#### 1) 植生・植物

本市の林野面積は約46,040ha（令和2年〈2020〉時点）で、総面積の約67%を占め、県内でも有数の森林率を誇ります。

本土圏域の山地はスギやヒノキの植林地が大部分を占め、自然植生はほとんどなく代償植生だいしょうしょくせいが点在しています。また、川内川やその支流沿いには竹林が広がっています。これらはかつて河川の堤防として植栽されたもので、現在ではその他の資源としての活用が進められています。

市内には、ムサシアブミータブ群集、スタジイ群落、ジャヤナギ群落など、鹿児島県レッドデー

タブックに記載されている貴重な植物群集や植物群落が確認されています。

甌島では、上甌島にクロマツの植林地が多く見られ、中甌島や下甌島ではシイ、マテガシ、ヤマモモ、ヤブニッケイなどの常緑広葉樹林が広がっています。長目の浜の砂礫州上では、砂地に発達することが珍しいとされるウバメガシ群落が発達しているほか、連続したツメレンゲ群落や国内最大級のハマナツメ群落が見られます。また、島内にはヘゴが自生しており、ヘゴ自生北限地帯として国の天然記念物に指定されています。

市の花であるカノコユリは、特に甌島に自生しており、初夏に咲くその美しい花は市民に親しまれています。その貴重なカノコユリの自生群落である「甌島片野浦のカノコユリ群落」は、令和8年2月に国の天然記念物に指定されました。また、市の木であるクロガネモチは、常緑の葉と赤い実が特徴で、市の発展と市民の融和を象徴しています。

## 2) 動物

本市には、広大な山地や河川、甌島をはじめとする島嶼部など、多様な自然環境が存在し、それに伴って多種多様な野生動物が生息しています。

陸域では、ニホンジカ、イノシシ、タヌキ、テンなどの哺乳類が広く見られ、特に山間部では生息密度が高くなっています。近年はイノシシやシカによる農作物被害も報告されており、各地域で防護柵の設置や捕獲活動が行われています。

鳥類は、留鳥・渡り鳥を含めてさまざまな種が確認されています。川内川の中・下流域にはカワセミ、ヤマセミ、ホオジロ、モズなどが生息しています。河口部にはシロチドリ、メダイチドリやミサゴなどが生息しています。

甌島では、国の天然記念物であるカラスバトや、チュウサギ、クロツラヘラサギ、ミサゴ、ハイタカ、サシバ、セイタカシギなどが確認されています。また、上甌島東部の属島群はウチヤマセンニューの繁殖地となっています。そのほか、下甌島西海岸の岸壁ではハヤブサ、沖の岩礁ではミサゴの営巣がそれぞれ見られ、鹿島断崖（主に東部）はウミネコの繁殖南限地となっています。

魚類は、川内川では上・中流域でアユ、オイカワ、ヨシノボリ、ウグイ、ニゴイ、ワンド、タナゴ類が生息しています。下流から河口の汽水域には、スズキやボラなどが生息し、魚類相が豊富です。また、河口干潟にはトビハゼなどの底生魚が生息しています。

甌島においては、上甌島北部の潟湖群にメダカなどの淡水魚、回遊魚であるオオウナギ、ボラなどの汽水魚、キスなどの海水魚が生息し、湖沼ごとに異なる分布が見られます。島周囲の海域には、島特産であるキビナゴをはじめ、メジナ、ヒラスズキ、カンパチ、マグロなど魚類が豊富です。

爬虫類・両生類では、イシガメ、スッポン、カナヘビ、鹿児島県及び環境省レッドデータブック準絶滅危惧種のアカハライモリや鹿児島県レッドデータブック準絶滅危惧種トノサマガエルなどが生息しています。

## 3) 昆虫

本市に生息する昆虫には、カブトムシやクワガタの甲虫をはじめ、キリシマミドリシジミやハッチョウトンボなどの希少なチョウ類やトンボ類などが生息しており、生物多様性の面でも高い価値を有しています。

特に注目されるのは、環境省の国内希少野生動植物種にも指定されているベッコウトンボです。この種は、浅い池沼や湿地に依存して生息しており、国内ではその生息地が限られることから厳重な保護が求められています。本市では祁答院町の藺牟田池に生息していますが、平成

21年（2009）の大規模な渇水によって激減しました。その後、地元の方や市民団体の協力を得て保護活動が行われ、個体数が回復してきています。

このほかにも、蘭牟田池にはエサキアメンボ、ギンイチモンジセセリ、アサギマダラ、ヒメボタルなど、準絶滅危惧種や生態的に貴重な種が生息しています。これらの種は、生物多様性の保全という観点からも極めて重要な意味を持ちます。

甕島には固有種であるコシキトゲオトンボのほか、台湾ツバメシジミ、アオイトトンボ、クロツバメシジミなどが生息しています。

## （5）景観

本市には、甕島国定公園や蘭牟田池県立自然公園といった豊かな自然景観が広がっています。

甕島国定公園は、甕島において、連綿と連なる海食崖、砂州と潟湖群、リアス式海岸などの多様な海岸景観、自然性豊かな照葉樹林などが主な区域として指定されています。

上甕島・下甕島の西部及び下甕島の南部の海岸線には、切り立った海食崖地形が連なり、随所に高さ100～200mにも及ぶ断崖や奇岩が見られます。この断崖や奇岩を形成する地層は、主として、約8,000万年前の上部白亜系堆積岩からなる姫浦層群<sup>ひめのうら</sup>によって構成され、砂岩頁岩互層からなる美しい横縞模様が見られます。また、上甕島に位置する長目の浜は準景観地区に指定されており、地域の宝として美しい自然景観の保全が図られています。

市の東部に位置する蘭牟田池県立自然公園は、飯盛山の噴火によってできた火口湖<sup>でいたん</sup>を中心として湿地・森林・草地など多様な生態系が形成されています。池には泥炭から形成された浮島<sup>うきしま</sup>が多くみられ、泥炭形成植物群落が国の天然記念物に指定されています。また、希少野生動植物であるベッコウトンボや水鳥の生息する重要な湿地として、平成17年（2005）11月8日にラムサール条約湿地に登録されました。

こうした景観は、自然の美しさのみならず、地域の歴史や生活文化とも深く結びついています。本市では、市内に所在する豊かな景観資源を市民共通の財産として保全・活用し、次の世代へ引き継ぐことを目的として、平成21年（2009）3月に「薩摩川内市ふるさと景観計画」を策定しました（令和6年〈2024〉12月改訂、同7年〈2025〉施行）。

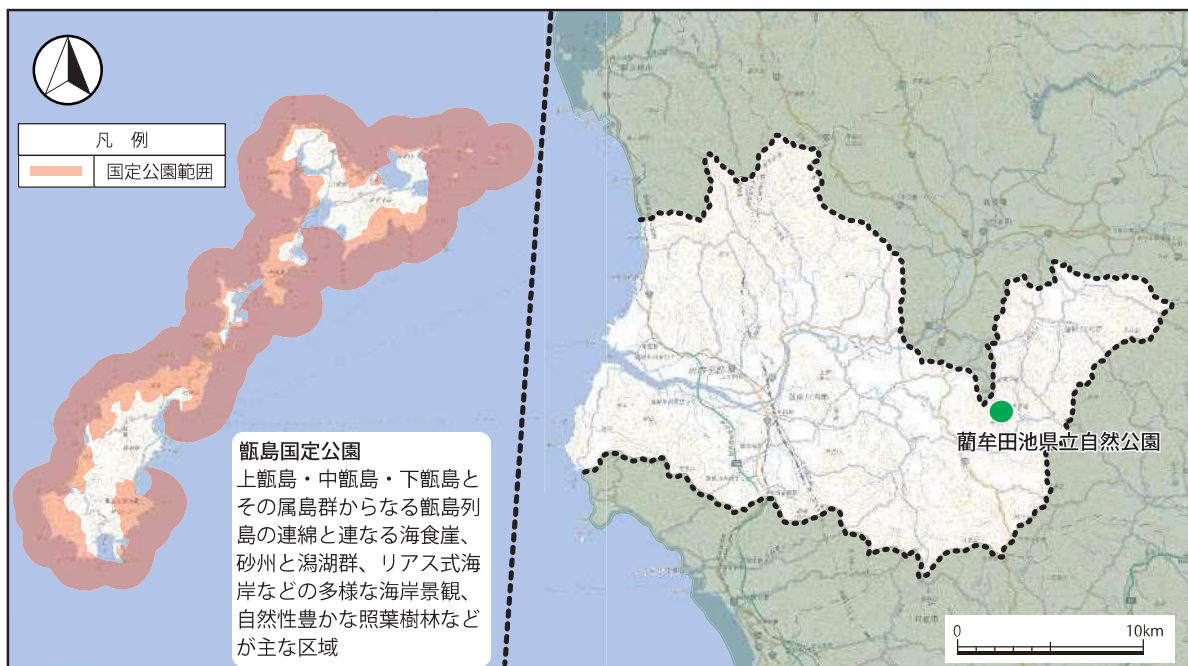


図11 甕島国定公園・蘭牟田池県立自然公園の位置図  
(国土地理院電子地形図を加工して作成)

2 社会的状況

(1) 市域の沿革

薩摩川内市域は明治初年時点で全域が薩摩藩領でした。明治政府が編纂した江戸時代の末期における全国村名目録である「旧高旧領取調帳」(鹿児島県は西南戦争の影響により明治14年<1881>に提出)によると、本市に存在した村々は次の表1の通りです。薩摩郡に9郷29村、高城郡に2郷11村、伊佐郡に3郷4村、甕島郡に1郷14村が所在しました。

明治4年(1871)の廃藩置県後、薩摩郡、高城郡、伊佐郡、甕島郡は鹿児島県の所属となりました。

明治22年(1889)には町村制施行により、高城郡水引村・高城村、薩摩郡隈之城村・平佐村・高江村・上東郷村・下東郷村・永利村・入来村・樋脇村・藺牟田村・大村・黒木村、上甕村、下甕村が成立しました。

明治24年(1891)には水引村が東水引村と西水引村に、上甕村が上甕村と里村に分離しました。

昭和4年(1929)には隈之城村・平佐村・東水引村が合併し、川内町が成立しました。昭和15年(1940)には川内町が市制を施行し、川内市が成立しました。また、樋脇村は町制を施行し樋脇町となりました。

戦後は昭和23年(1948)に入来村が町制を施行し、入来町となりました。昭和24年(1949)には大村から中津川村(現さつま町中津川)が分離し、下甕村から鹿島村が分離しました。

昭和26年(1951)には水引村(昭和8年<1933>に西水引村から水引村に改称)が川内市に編入され、昭和27年(1952)には上東郷村が町制を施行し東郷町となりました。昭和30年(1955)には藺牟田村・大村・黒木村が合併し、祁答院町が成立しました。昭和31年(1956)には永利村と高江村が川内市に編入されました。また、翌32年(1957)には下東郷村が川内市、東郷町及び高城町に分割編入されました。昭和34年(1959)、高城村は町制を施行し高城町となり、昭和40年(1965)には川内市に編入されました。

平成16年(2004)に川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村の1市4町4村が合併し薩摩川内市が誕生しました。

表1 近世末期の薩摩川内

| 郡   | 郷       | 村名                                  | 明治22年(1889) | 備考                            |
|-----|---------|-------------------------------------|-------------|-------------------------------|
| 薩摩郡 | 入来郷     | 浦ノ名村、副田村                            | 入来村         |                               |
|     | 樋脇郷     | 倉野村、塔ノ原村、市比野村、久住村、中村、楠元村            | 樋脇村         |                               |
|     | 東郷      | 宍野村、南瀬村、山田村、鳥丸村、藤川村、斧淵村、船倉村、田海村、白浜村 | 上東郷村        | 東郷の田海・白浜村は下東郷村となる             |
|     | 中郷      | 中郷村                                 | 下東郷村        | 明治3年(1870)に東郷に編入される           |
|     | 百次郷     | 百次村、田崎村                             | 永利村         | 明治2年(1869)に百次郷と山田郷が合併し、永利郷となる |
|     | 山田郷     | 山田村                                 |             |                               |
|     | 高江郷     | 高江村、久見崎村、寄田村                        | 高江村         |                               |
|     | 隈之城郷    | 東手村、西手村、宮里村                         | 隈之城村        |                               |
| 平佐郷 | 平佐村、天辰村 | 平佐村                                 |             |                               |
| 高城郡 | 水引村     | 大小路村、宮内村、五代村、網津村、草道村、小倉村            | 水引村         |                               |
|     | 高城郷     | 西方村、麓村、湯田村、麦ノ浦村、城上村                 | 高城村         |                               |
| 伊佐郡 | 藺牟田郷    | 藺牟田村                                | 藺牟田村        |                               |
|     | 大村郷     | 上手村、下手村                             | 大村          |                               |
|     | 黒木郷     | 黒木村                                 | 黒木村         |                               |
| 甕島郡 | 甕島郷     | 里村、中甕村、瀬上村、中野村、小島村、江石村、平良村          | 上甕村         |                               |
|     |         | 藺牟田村、長浜村、青瀬村、瀬々浦村、片ノ浦村、手打村、桑ノ浦村     | 下甕村         |                               |

※「旧高旧領取調帳」より作成。明治22年以降は図12を参照



(2) 人口動態

令和8年(2026)3月1日現在の住民基本台帳によると、本市の総人口は89,667人です。本市の人口は昭和60年(1985)に108,105人(合併前旧市町村の合計)とピークを迎えましたが、その後は、減少傾向が顕著です。一方で、令和4年(2022)の高齢化率は32.8%で、増加傾向にあり、2045年には総人口が76,208人まで減少し、高齢化率は35.0%(26,728人)にまで及ぶと推計されています。

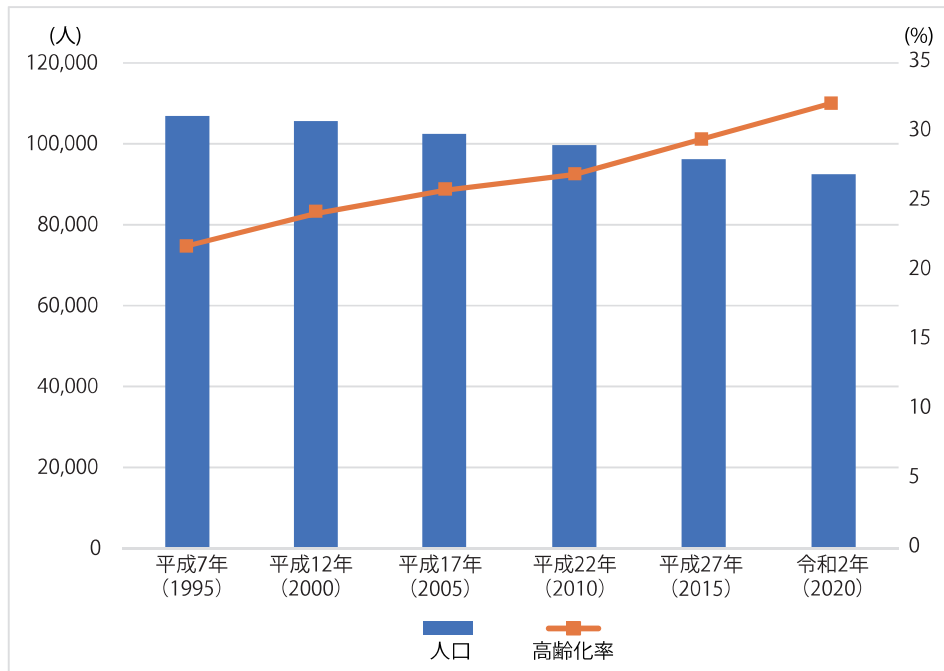


図13 市の人口と高齢化率の推移 (国勢調査の統計より作成)

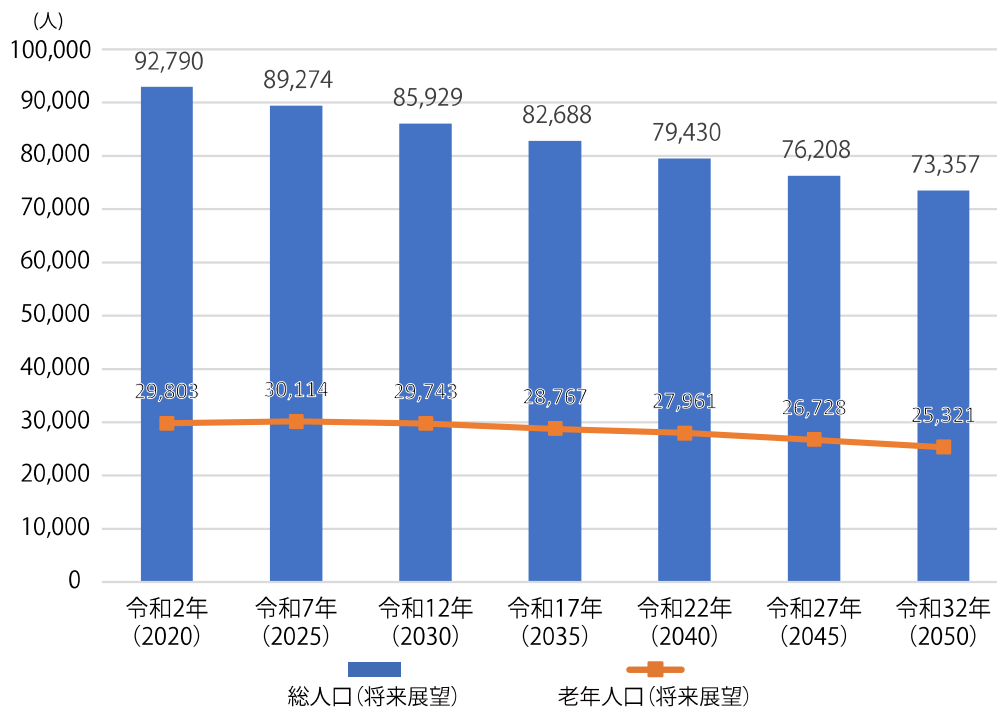


図14 将来推計人口と高齢化率  
 (「まち・ひと・しごと創生 薩摩川内市人口ビジョン」(平成27年(2015))より作成)

本市の令和4年4月1日現在の年齢別人口は、年少人口（0～14歳）が12,689人、生産年齢人口（15～64歳）が49,765人、老年人口（65歳以上）が30,346人です。

### （3）土地利用

本市の土地利用別の面積を見ると、自然的土地利用面積の割合は用途地域では26.5%、用途白地地域では82.0%です。それに対し、都市的土地利用は用途地域が73.5%、用途白地地域が18.0%となっています。

都市計画区域全域における土地利用の構成では、山林が44.6%と最も多く都市計画区域を取り囲んでいます。次に田が13.8%の割合で平野部と山間に広がり、次いで用途地域を中心に住宅用地が9.4%、畑7.8%、その他の自然地为7.1%という順となっており、自然的土地利用が都市計画区域の約8割を占めています。

本市の都市計画区域では、11種類の用途地域を指定することによる規制・誘導施策と土地区画整理事業等の市街地開発事業により、都市基盤の整った新たな市街地整備が進められてきました。

一方で、中心市街地をはじめ市内には未利用地が散見され、指定用途地域にあった土地の有効活用が促されるような施策展開が求められます。中心市街地の高齢化率と新築住宅の分布を見ると中心市街地は高齢化率が高く、また、新築住宅の件数が周辺と比較して少ない状況となっており、商業地域に指定されているものの建築活動や市街地の更新が停滞しています。5階以上の建物の分布状況については川内駅周辺の高度利用が見られず、機能の集積及び土地の度利用が求められます。（「薩摩川内市都市計画マスタープラン」より引用）

### （4）交通

本市の北西部から市中心部を経由し、南部に向けて国道3号が通っています。また、中心部から東へ国道267号、市の東部には国道328号が南北に通っています。これらの国道を起点に県道や市道が張り巡らされています。

また、自動車専用道路として南九州西回り自動車道が整備され、平成25年（2013）に薩摩川内水引ICから薩摩川内高江IC間が開通し、平成27年（2015）には薩摩川内高江IC間から薩摩川内都IC間が開通し、利便性が向上しました。

鉄道としては、八代駅（熊本県八代市）から川内駅間を肥薩おれんじ鉄道が運行しています。本市には北から西方駅、薩摩高城駅、草道駅、上川内駅、川内駅があります。川内駅からはJR鹿児島本線となり、隈之城駅、木場茶屋駅があります。

また、平成16年（2004）に九州新幹線が新八代駅から鹿児島中央駅間が営業運転を開始し鹿児島市へのアクセスが向上しました。平成23年（2011）には全線開通し、九州北部とのアクセスもさらに向上しました。

本土から甕島へのアクセスは、川内港と里港、長浜港を結ぶ航路があります。また、令和2年（2020）に甕島と下甕島を結ぶ甕大島が開通し、島間の移動が容易になりました。

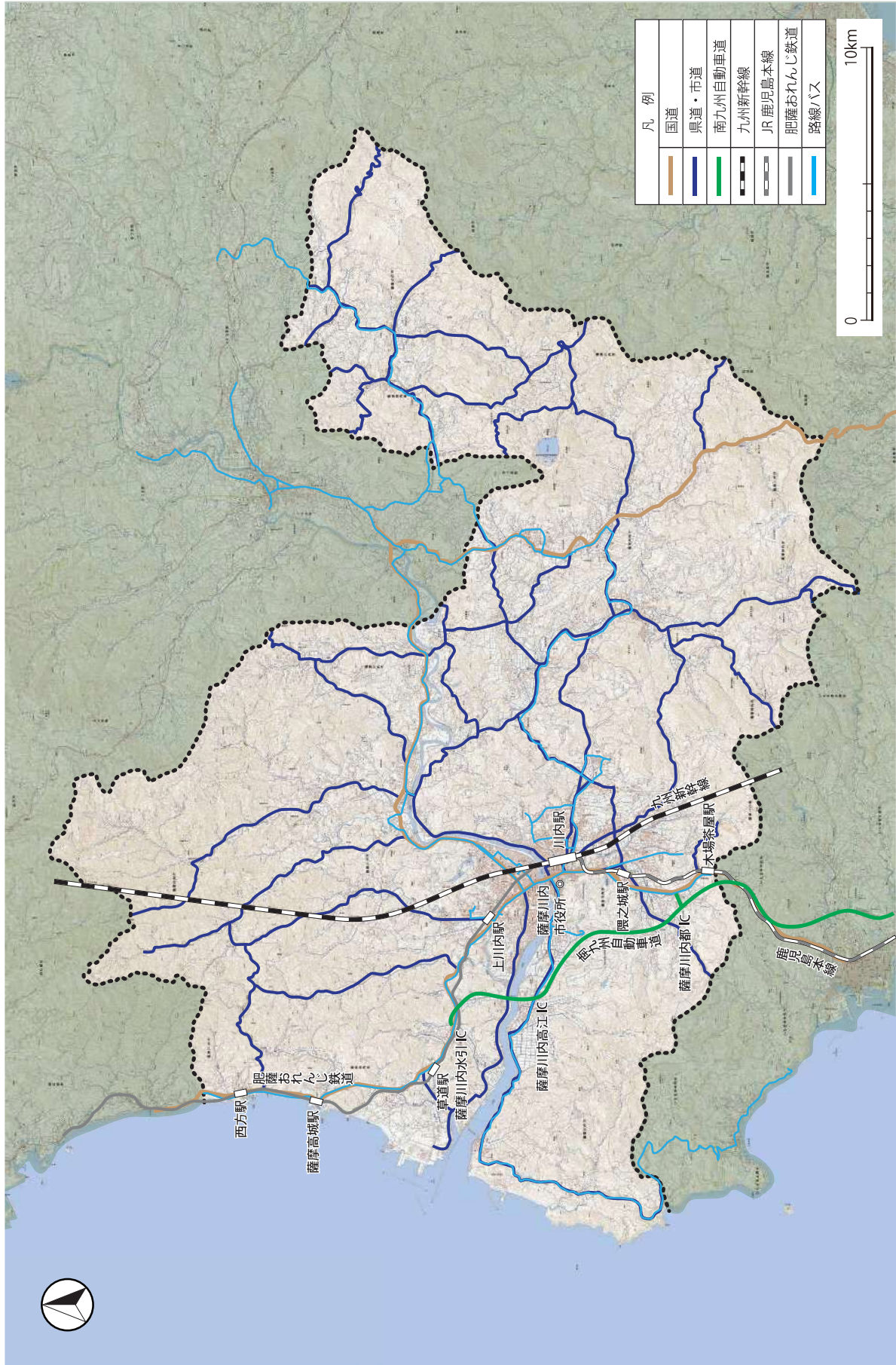


図15 薩摩川内市域の交通 (国土地理院電子地形図を加工して作成)

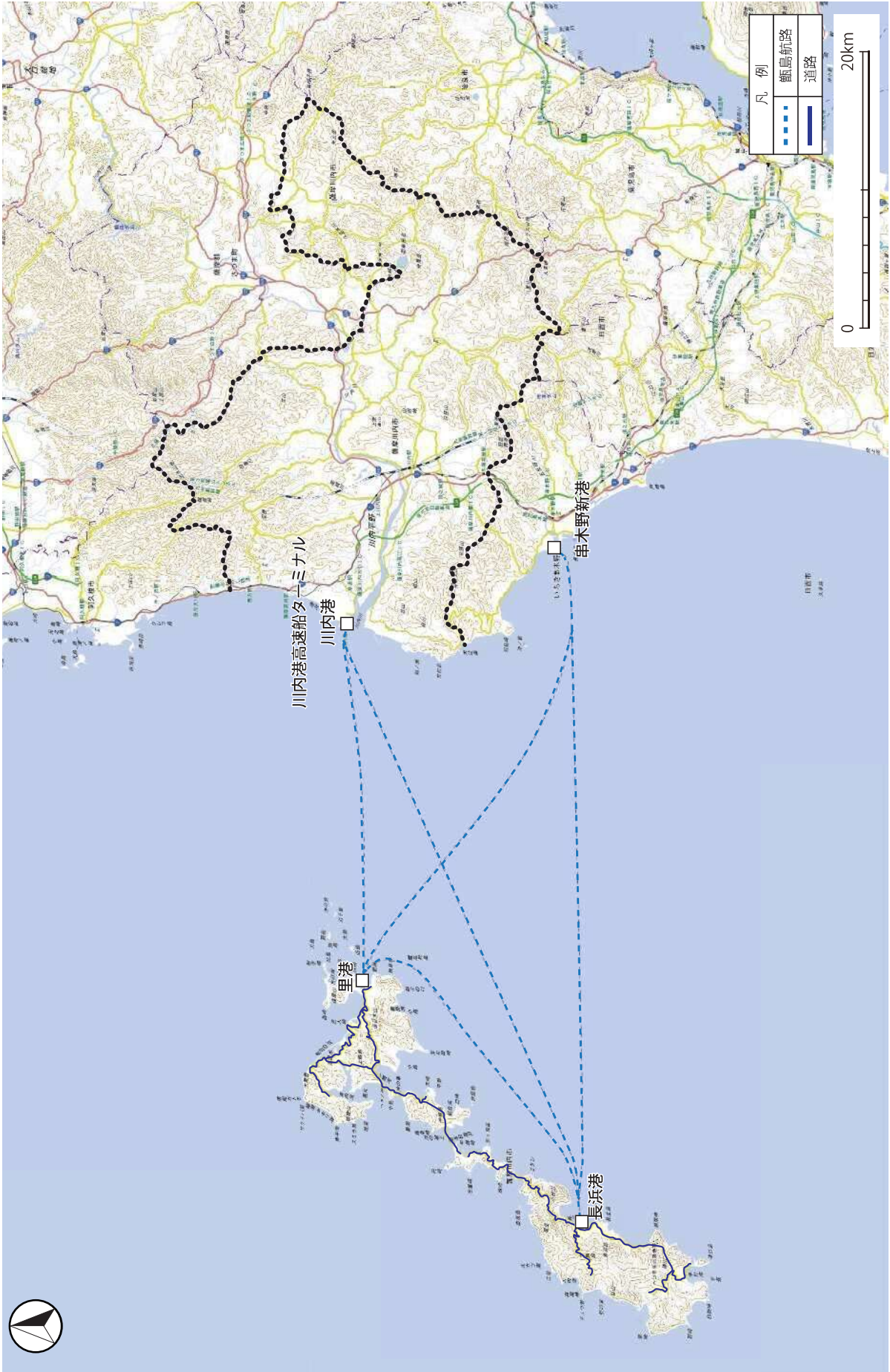


図16 藍島への航路及び藍島の道路 (国土地理院電子地形図を加工して作成)

## (5) 産業

### 1) 農林水産業

本市の耕地面積は3,990ha（令和5年〈2023〉農林水産省発表）で、山間部が多いため平坦地が限られてしまうという地形的な制約から、耕地面積が本市の総土地面積に占める割合は低いものの、多様な農産物の生産が行われています。本市では、水稻を中心に、園芸重点7品目（らっきょう、にがうり、ごぼう、やまのいも、いちご、きんかん、ぶどう）など、地域の気候や地形を活かした多彩な農業が展開されています。

しかし、農業従事者の高齢化や新規就農者の減少によって、担い手不足が深刻化しています。また、それに伴い耕作放棄地が増加してきており、環境への影響も懸念されます。

こうした課題に対応するため、本市では「農業経営基盤強化促進法」に基づき、令和7年（2025）3月に「地域計画」を策定しました。この計画では、地域ごとの農地の有効利用や農地バンクを活用した集約化、担い手の育成に向けた取組が進められています。

また、農業従事者が農産物の生産だけでなく、加工、流通・販売などに取り組む6次産業化を進めることにより、付加価値の向上と農業所得の確保を図るとともに、地域経済の活性化にも寄与しています。さらに、農業と福祉を結びつけた「農福連携」や、耕作放棄地の解消、農村環境の保全など、多様な地域課題への対応も進んでいます。

このように、本市では、地形的な制約を克服しつつ、地域資源を最大限に活かした持続可能な農業の実現を目指した取組が展開されています。

本市の森林面積は約47,029haで、本市の総面積に対する森林率は68.9%と高いです。その中で国有林が3,992ha（森林面積の8.5%）、民有林が43,037ha（91.5%）となっています。民有林の内訳は、私有林34,453ha、市有林は8,171ha、県有林413haです。

民有林のうち、スギ・ヒノキ主体の人工林面積は18,461ha、人工林率は42.9%で、県平均とほぼ同じです。これに加えて、本市では持続可能な森林経営を推進するため、「森林経営管理制度」や「森林環境譲与税」を活用し、森林所有者の意向を踏まえながら、適切な間伐や作業道整備、再造林の促進などを進めています。特に、高齢化や所有者不明林の増加により手入れが困難となっている山林については、本市が仲介・支援を行うことで、地域内での森林資源の循環利用体制づくりに取り組んでいます。

本市は東シナ海に面しており、豊かな漁場に恵まれています。とりわけ甌島は、潮流が複雑であることから、沿岸・沖合漁業が盛んです。

主な漁獲物にはキビナゴ、マグロ類、ブリ類、カニ、ウナギなどがあり、季節に応じた複合的な漁業を行っていることが特徴です。

一方で、漁業就業者の高齢化や後継者不足が課題となっています。このため、本市や漁協では、担い手育成や補助金の交付、加工・販売支援を通じて地域漁業の維持に取り組んでいます。また、「甌島のきびなご」など地域ブランドの推進や、直売所の運営などを通じて、水産業と観光・地域経済の連携も進んでいます。

### 2) 製造業

京セラ株式会社は、昭和34年（1959）に創業された電気機器会社で、セラミック（無機固体材料）技術を活かして、ファインセラミック部品や電子部品、医療機器など多様な製品を製造しています。本市には鹿児島川内工場があり、電子部品や半導体部品の製造を行っています。

中越パルプ工業株式会社は、昭和22年（1947）に創業された製紙会社で、本市に川内工場を有しています。同工場では、新聞用紙、印刷用紙、包装用紙、特殊紙、製紙用パルプなどを製造しています。また、平成21年（2009）からは本市内に多くある竹林の竹を有効活用する

ため、これを原料とした竹紙の生産・販売も行っています。

サーキュラーパーク九州株式会社は、九州電力株式会社及び株式会社ナカダイホールディングスの合併会社で、令和5年（2023）に設立されました。本市にある川内（火力）発電所の跡地において、資源循環と脱炭素化を推進する拠点として、企業や地域の廃棄物を再資源化するリソーシング事業や、産官学のネットワークを活用したソリューション事業を展開しています。

### 3) 商工業

川内商工会議所は、昭和22年（1947）に、地域商工業の振興と社会福祉の増進を目的として設立された地域の総合経済団体です。事業者の経営支援や地域経済の活性化に向けた各種事業を展開しています。具体的には、中小企業や小規模事業者を対象に、税務・記帳・労働保険の相談や手続き支援のほか、共済制度の案内、金融相談などの経営支援を行っています。また、川内川花火大会などのイベントを主催し、中心市街地のにぎわい創出にも取り組んでいます。

薩摩川内市商工会は平成19年（2007）に設立され、入来地域に本所を置き、高城、樋脇、東郷、祁答院、里、上甕、下甕の各地域にそれぞれ支所を構えています。地域の小規模事業者を対象に、経営相談や記帳指導、労働保険の手続き支援などを行っています。また、特産品の開発や販路拡大、EC促進（企業が顧客に対して商品・サービスをオンライン上のECサイトで販売・提供する）事業など、地域資源を活用した事業支援を実施しています。

### 4) 観光物産業

株式会社薩摩川内市観光物産協会は、平成25年（2013）に、地域の観光振興と物産の販路拡大を目的として設立されました。拠点はJR川内駅2階にあり、駅構内のほかに上甕島・下甕島に観光案内所を設けています。同協会は、地域の観光資源や特産品を活かした体験型観光の推進、着地型旅行商品の造成・販売、観光情報の発信などに取り組んでいます。

観光案内所では、本市内の観光の案内業務に加え、レンタサイクルの提供など来訪者支援にも力を入れています。また、地域住民や団体、関係事業者と連携しながら、観光を通じた地域活性化を図るとともに、文化財や伝統行事などの地域資源を活かした観光コンテンツの開発も推進しています。

## (6) 文化財関連施設

本市が管理・運営する施設として、以下の13施設があります。

### 1) 川内歴史資料館

川内歴史資料館は、歴史・文化の継承と教育普及を目的として、昭和59年（1984）に開館しました。本市域の豊かな歴史をたどる資料館として、考古・歴史・民俗・美術など多分野にわたる資料を収集・保存し、常設展示・企画展示などを通して公開しています。

館内では、およそ2万年前の旧石器時代から現代に至るまでの地域の歴史を、出土遺物や古文書、絵図などを通して紹介しており、特に国指定史跡「薩摩国分寺跡」<sup>さつまこくぶんじあと</sup>に関連する出土品や復元模型、戦国期や近世の川内に関する資料が充実しています。

また資料館の周辺には、「薩摩国分寺跡史跡公園」や、万葉集の編者として知られる大伴家持<sup>おおともやかもち</sup>にちなんだ「万葉の散歩道」など、歴史的なスポットが点在しており、地域の歴史と自然を感じながら散策を楽しむことができます。川内歴史資料館は、地域の歴史や文化を学び、体験することができる施設として、多くの人々に親しまれています。

開館日 火～日曜日（月曜日〈祝日の場合は翌日〉、12月29日～1月3日休館）

開館時間 9時～17時（最終入館16時30分まで）

所在地 薩摩川内市中郷 2-2-6

施設内容 常設展示室、企画展示室、屋外展示、資料閲覧コーナー

## 2) 川内まごころ文学館

川内歴史資料館と同じ敷地内に、平成16年(2004)に開館しました。川内出身で総合雑誌『改造』を創刊した山本實彦と、有島三兄弟にゆかりのある文学者の資料のほか、郷土出身の作家に関する資料を収蔵・展示しています。特に、地元出身の作家・詩人・俳人・画家などに関する自筆原稿や愛用品、作品などが収蔵・展示されており、郷土文化の多様性と奥行きを伝える施設として活用されています。

開館日 火～日曜日(月曜日〈祝日の場合は翌日〉、12月29日～1月3日休館)

開館時間 9時～17時(最終入館16時30分まで)

所在地 薩摩川内市中郷 2-2-6

施設内容 常設展示室、企画展示室、多目的映像ホール、図書・休憩コーナー

## 3) 薩摩国分寺跡史跡公園

国分寺は、天平13年(741)の国分寺建立の詔により、仏教による国家鎮護を目的として全国に建立された寺院です。薩摩国では8世紀の後半に建立されたと考えられています。度重なる戦乱や災害に遭いながらも江戸時代の終わりまで存続していましたが、慶応3年(1867)に廃寺となりました。

薩摩国分寺跡は、昭和19年(1944)に塔跡が国指定史跡となっていましたが、昭和43年(1968)から鹿児島県による発掘調査が行われ、昭和51年(1976)に「薩摩国分寺跡」として追加指定を受けました。その後も発掘調査と整備事業が行われ、昭和60年(1985)に国指定史跡公園として開園しました。総面積は16,449㎡で、九州で初めて整備された国分寺跡の史跡公園です。園内には、14個の礎石を用いた塔跡や、講堂跡、金堂跡、北門跡などが復元されており、当時の伽藍配置を確認することができます。また、地域の歴史学習や散策の場として親しまれており、隣接する川内歴史資料館では、薩摩国分寺に関する資料や模型が展示されています。

所在地 薩摩川内市国分寺町字大都及び下台の一部の区域

## 4) 横岡古墳公園

横岡古墳は、川内川支流の高城川沿いの標高約7mの丘の上に築かれた、古墳時代の墓地跡です。大正12年(1923)に最初の調査が行われて、その際に南九州特有の墓制である地下式板石積石室墓が確認され、蛇行鉄剣・銀環・須恵器・鉄鏃などが出土しました。

昭和58年(1983)の調査では、人骨の一部が発見されたほか、鉄刀・鉄剣・蛇行剣が出土しました。蛇行剣は全国的にも出土例が少なく、地下式板石積石室墓から出土した最初の事例となりました。また、平成3年(1991)の確認調査では、石室墓のほかに土坑墓が確認されました。

横岡古墳は、古墳時代の埋葬文化を知るうえで貴重な遺跡として、平成4年(1992)に川内市指定文化財(史跡)に指定されました。その後、整備事業を経て平成8年(1996)に横岡古墳公園として開園しました。

所在地 薩摩川内市上川内町字釜口 4770-1

## 5) 天辰寺前古墳公園

天辰寺前古墳は、平成20年(2008)に本市天辰町の区画整理事業中に発見された古墳で、

石室が盗掘されていない状態で見つかりました。平成25年（2013）には、古墳と出土品が鹿児島県の指定文化財となりました。

古墳は5世紀頃の築造で、直径約28m、高さ約3mの円墳と推測されています。石室からは壮年の女性が1体埋葬されており、副葬品として貝製の腕輪、銅鏡、刀子とうすが納められていました。これらの出土品から、被葬者は当時この地域を治めていた有力者であったと考えられています。

現在、古墳は整備されて天辰寺前古墳公園として公開されており、石室の復元模型などが展示されています。

所在地 薩摩川内市天辰町字寺前 651-2

## 6) せんだい宇宙館

せんだい宇宙館は、天文台と展示施設が融合した体験型の天文施設として、平成10年（1998）に開館しました。施設内には、口径50cmのカセグレン式反射望遠鏡を備えた観測室があり、晴天時には昼夜を問わず天体観測が可能です。展示室では、全身を使って太陽系を旅する体験型ゲーム「FLYING GALAXY」が導入され、子どもから大人まで幅広い世代に人気です。

施設は、薩摩川内市民まちづくり公社が管理運営を行っており、地域の教育・観光資源として活用されています。また、隣接する「寺山いこいの広場」には、ゴーカートコースやフラワーガーデン、レストハウスなどの施設があり、家族連れで一日中楽しむことができます。

開館日 火～日曜日（月曜日休館〈祝日の場合は翌日〉）

開館時間 10時～21時（最終入館20時30分まで）

所在地 薩摩川内市永利町2133-6（寺山いこいの広場内）

施設内容 観測室（口径50cm反射望遠鏡）、展示室（宇宙・天文に関する体験展示）、観測資料室

## 7) 樋脇郷土館

鎌倉時代末期の倉野磨崖仏くらのまがいぶつの梵字ほんじや、市指定有形文化財の樋脇郷鳥瞰図ちようかんずなどの歴史資料が収蔵されています。また、明治時代から昭和時代までの樋脇地域の民俗文化が時代ごとに紹介されており、生活用具や産業用具の展示も多彩です。また、樋脇分館には郷土に関する図書類が充実しています。

開館日 火～日曜日（月曜日、第3日曜日、祝日、12月29日～1月3日休館）

開館時間 9時～17時

所在地 薩摩川内市樋脇町市比野2442-1

施設内容 展示室（歴史資料・民具）、図書館

## 8) 入来郷土館

入来いりきふもと 伝統的建造物群保存地区内に所在し、地域の歴史や文化を紹介する施設です。刀剣や武士の装束、入来院文書の複製、入来院文書の英訳本を刊行した朝河貫一あさかわかんいちの署名入り冊子などを展示しています。

開館日 火～日曜日（月曜日、第3日曜日、祝日、12月28日～1月4日休館）

開館時間 9時～17時

所在地 薩摩川内市入来町浦之名33

施設内容 展示室（歴史資料・民具）

### 9) 旧増田家住宅<sup>きゅうますだけ</sup>

入来麓伝統的建造物群保存地区内にある武家住宅です。明治6年（1873）頃に建てられた母屋と、大正7年（1918）に建てられた石蔵、同時期に造られた浴室便所が一体となって保存されています。母屋は、客間である「おもて」と、居住空間である「なかえ」を連結した分棟型<sup>ぶんとうがた</sup>形式で、茅葺屋根<sup>かやぶき</sup>が特徴です。敷地入口には、明治6年（1873）の石敢当<sup>せつかんとう</sup>（三叉路に置かれた魔除けの石）が設置されています。

平成22年度（2010）から保存整備事業が実施され、平成25年度（2013）から一般公開されています。平成26年（2014）12月10日には、国の重要文化財に指定されました。

開館日 火曜日～日曜日（月曜日休館〈祝日の場合は翌日〉、12月31日～1月3日休館）

開館時間 9時～17時（最終入館16時30分まで）

所在地 薩摩川内市入来町浦之名77

施設内容 母屋（おもて・なかえ）、石蔵、浴室便所、洗い場

### 10) 祁答院生態系保存資料館（アクアタイム）

平成11年（1999）に、国指定の天然記念物で、ラムサール条約にも登録されている藪牟田池の生態系を保存・紹介するための施設として開館しました。

館内では、藪牟田池に生息する淡水魚やトンボ類などの展示を通じて、藪牟田池周辺の生物多様性と自然環境の大切さを伝えています。また、藪牟田池周辺ではキャンプやハイキングも楽しめるため、自然体験と学習を兼ねた場としても利用されています。

開館日 火曜日～日曜日（月曜日休館〈祝日の場合は翌日〉、年末年始）

開館時間 10時～17時

所在地 薩摩川内市祁答院町藪牟田1999-2

施設内容 展示室、淡水魚の展示水槽、関連書籍の閲覧コーナー

### 11) 上甕郷土館

薩摩川内市上甕支所に隣接し、上甕島の歴史や文化を伝える地域資料館です。島の自然、漁業、生活文化に関する資料を展示し、地域の魅力を発信しています。

開館日 月曜日～金曜日（土・日曜日、祝日、年末年始）

開館時間 9時～17時

所在地 薩摩川内市上甕町中甕481-1

施設内容 展示室（歴史資料・民具）

### 12) 下甕郷土館

昭和57年（1982）に下甕島手打地区の武家屋敷通りの中に開館しました。下甕島の漁業や農業に使用された民具など、島の歴史を物語る資料が展示されています。敷地内には復元された武家屋敷があり、当時の生活様式を体感でき、訪れる人々に島の魅力を伝えています。

開館日 水～日曜日（月・火曜日、祝日、12月28日～1月3日休館）

開館時間 9時～17時

所在地 薩摩川内市下甕町手打1031

施設内容 展示室（民具・歴史資料）、復元武家屋敷

### 13) 甕ミュージアム

甕島の地質や古生物資料を展示する博物館で、令和7年（2025）4月1日にオープンしました。

甑島には、白亜紀後期の地層である「姫浦層群」が分布しており、約 8,000 万年前の地層が現存する国内有数の地質・景観資源として知られています。国定公園にも指定されているこの地域において、甑ミュージアムは、自然遺産を学ぶ拠点であるとともに、教育・観光を通じて地域振興に貢献する施設です。

館内には、恐竜や二枚貝、アンモナイト、魚類など、陸上・海洋の化石を含む約 1,000 点の甑島産の化石や岩石が常設展示されています。また、プロジェクションマッピングや化石クリーニング作業の見学など、体験型の学習プログラムも提供されています。

開館日 月曜日～日曜日（水曜日、12月29日～1月3日休館）

開館時間 9時～17時（最終入館16時30分まで）

所在地 薩摩川内市鹿島町藺牟田 1457-10

施設内容 展示室、研修室、多目的ホール、会議室



### 3 歴史的背景

薩摩川内市は、川内川によって形成された肥沃な川内平野を背景として、古代以来北薩地域において政治・経済・文化の中心地であったことが、発掘調査や文献により明らかになっていきます。川内という地名は、一説では奈良時代に薩摩国府が置かれた地域が川内川の内側であったため「川内」と称され、対岸に属する地域を「川外」と呼んだことに由来するといわれています。

本市が昭和63年（1988）から平成2年（1990）に行った分布調査では、旧石器時代から江戸時代の遺跡を126か所確認し、古くから途切れることなく本地域に居住した人々の足跡を知ることができます。

#### (1) 神話

『古事記』『日本書紀』によると、天照大神の孫とされるニニギノミコトが高千穂峰に降り立ちました（天孫降臨）。ニニギノミコトは霧島神宮を創建し、現在の南さつま市の笠狭の碕に笠狭宮を築いて、山の神の娘であるコノハナサクヤヒメ（アタツヒメ）と結婚しました。その後、現在の薩摩川内市に移りました。この地でニニギノミコトは「千臺宮」に住みました。薩摩川内の「川内」は、川内川の内側の地域であったことに由来するとされていますが、この「千臺」に由来するという伝承もあります。

本市中心部、新田神社が所在する神亀山には、ニニギノミコトの可愛山陵、コノハナサクヤヒメの端陵、ニニギノミコトの長男で隼人の祖とされるホスセリノミコトの中陵が所在したと伝えられています。さらに、少し離れた所には川合陵が所在し、これはホアカリノミコト（ニニギノミコトの第3子又は兄）の陵であると伝えられています。

なお、可愛山陵は神代三陵の一つとされ、明治7年（1874）に明治政府によりニニギノミコトの墳墓に治定されました。現在は宮内庁が管理しています。

#### (2) 旧石器時代

鹿児島県内で初めて旧石器時代の尖頭器が出土した馬立遺跡（薩摩川内市楠元町）、ナイフ形石器・細石器が出土した成岡遺跡（薩摩川内市中福良町）のほか、剥片尖頭器・ナイフ形石器・細石刃が出土した上野城跡（薩摩川内市百次町）などがあります。成岡遺跡と西ノ平遺跡（薩摩川内市中福良町）では、加治屋園・船野型細石刃核が出土しており、川内平野における旧石器時代の様相が明らかになってきています。

#### (3) 縄文時代

早期は前畑遺跡（薩摩川内市城上町）、霜月田遺跡（薩摩川内市都町）、大原野遺跡（薩摩川内市川永野町）で、中九州系の中原式土器が出土しています。また、前畑遺跡では、北陸地域に分布する新崎式土器が出土しており、広域での交流があったことが分かります。石器は、山仁田遺跡（薩摩川内市青山町）で摘み部が3か所ある横形の石匙が出土しています。

前期は前畑遺跡、大原野遺跡で轟B式土器、京田遺跡（薩摩川内市中郷町）で曾畑式土器が出土しています。中期は上野城跡で阿高式土器が出土しています。

後期になると、遺跡数が増加します。土坑墓や骨角器が出土した麦之浦貝塚（薩摩川内市陽成町）や楠元遺跡（薩摩川内市百次町）では、在地の土器である市来式土器に伴って北部九州や中九州の土器である鐘崎式土器や北久根山式土器が多く出土しています。ここから、東シナ海に面する川内地域と他地域との交流が活発であったことがうかがえます。

晩期では、計志加里遺跡（薩摩川内市中郷町）で黒川式土器・組織痕土器・壺形土器が出土

しています。甌島の中町馬場遺跡（薩摩川内市里町）でも黒川式土器が若干出土しています。

#### (4) 弥生時代

前期は、川内川の自然堤防上に所在する大島遺跡（薩摩川内市東大小路町）で、突帯文土器や石包丁が出土しており、この時期には水稲耕作が行われていたことがうかがえます。中期後半以降になると、京田遺跡や楠元遺跡から水田跡や鋤・鍬などの木製農具が出土していることから、この時期には水稲耕作が定着していることがうかがえます。後期になると遺跡数が増え、外川江遺跡（薩摩川内市五代町）で内行花文鏡、麦之浦貝塚では後漢の破碎鏡片が出土しています。

また、中町馬場遺跡からは縄文時代末から弥生時代前期にかけて間断なく遺物が出土しています。弥生時代前期の土器の大半は、北部九州の有明海沿岸部から薩摩半島に至る地域に共通した特徴を持っています。

#### (5) 古墳時代

川内平野と肝属平野は、いわゆる高塚古墳の分布が希薄な鹿児島県において、古墳文化の波及が確認される地域です。特に川内平野は在地性の強い地下式板石積石室と畿内系の高塚古墳が重複し、古墳文化周辺部の様相をよく現しています。横岡古墳（薩摩川内市上川内町）では、5～7世紀に築造された地下式板石積石室墓群10基と土坑墓群が検出され、副葬品として蛇行剣などが出土しています。

川内平野には、竪穴式石室の構造をもつ円墳の船間島古墳（薩摩川内市港町）があり、御釣場古墳（薩摩川内市湯島町）では石蓋土坑墓と箱式石棺墓が検出されています。また、平成21年度（2009）の天辰寺前古墳（薩摩川内市天辰町）の調査では、5世紀前半の竪穴式石室に埋葬された成人女性の人骨や貝輪などの豊富な副葬品が出土しています。楠元遺跡では、古墳時代にも引き続き水稲耕作が行われていますが、弥生時代の自然地形利用型の水田とは異なり、灌漑施設を備えた水利管理型のものに移行しています。本市における古墳時代の集落について調査事例は少ないですが、成岡遺跡では19基、麦之浦貝塚では16基の竪穴建物が検出されています。

甌島の手打貝塚（薩摩川内市下甌町）は南九州では類例が少ない古墳時代の貝塚で、配石墓が検出され、石枕様の物を置いた伸展葬の成人男性の人骨が出土しています。また、中町馬場遺跡では古墳時代前半の竪穴建物とみられる遺構も検出しています。

#### (6) 奈良時代・平安時代

大宝2年（702）、薩摩国が日向国から分置され、御陵下町・国分寺町に広がる河岸段丘に薩摩国府が設置されました。天平13年（741）に聖武天皇の発願によって、薩摩国府に隣接して薩摩国分寺が建立されて以来、薩摩国における政治・文化の中心地となりました。

薩摩国分寺は、昭和43年～45年（1968～1970）の発掘調査によって、平安期・鎌倉期に再建が行われた状況や伽藍配置が大和川原寺式であることが判明しました。また、国分寺跡北方1kmには、国分寺創建時の瓦を焼いた鶴峯窯跡があります。瓦窯が2基検出されました。瓦窯とともに須恵器窯1基も検出しています。

古代の行政区は、川内川以北が高城郡、以南は薩摩郡に属していました。高城郡は「非隼人郡」と呼ばれ、薩摩国建国の際に肥後国からの移民が行われた地域です。京田遺跡では、「告知札」と呼ばれる木簡が鹿児島県内で初めて出土しました。木簡には「嘉祥三年」（850年）という年銘のほか、郡司から在地の有力者に水田の差し押さえを告知する内容が墨書されています。条里

地割をはじめとする土地支配や、地方行政の在り方を考えるうえで重要です。また、カマドをもつ住居跡や緑釉陶器、越州窯系青磁が発見された大島遺跡、鍛冶炉から多くの鉄製品が出土した鍛冶屋馬場遺跡（薩摩川内市平佐町）があります。これらの遺跡は、高城郡の中心部を構成する集落でした。西ノ平遺跡では、大型の掘立柱建物跡が検出され、緑釉陶器・越州窯系青磁・焼塩土器・帯金具などが出土し、薩摩郡の郡衙に比定されています。川骨遺跡（薩摩川内市高江町）では人面墨書土器が出土しており、薩摩郡衙との関係が注目されています。

### （7）鎌倉時代、南北朝・室町時代、戦国時代

鎌倉時代から室町時代にかけては、島津氏・渋谷氏の鎌倉武士と武光氏ら在地領主間の領地支配をめぐる争いが絶えませんでした。これらの諸氏は、南北朝の動乱を挟む激しい争いに伴って各地に山城が築かれました。清色城（薩摩川内市入来町）、碓山城（薩摩川内市天辰町）、二福城（隈之城）（薩摩川内市隈之城町）、高江城（薩摩川内市高江町）、百次城（上野城）（薩摩川内市百次町）などの多くの山城を築きました。その数は「鹿児島県の中世城館跡一中世城館跡調査報告書一」に記されているものだけでも40か所以上にのぼります。

上野城跡では、多くの掘立柱建物跡や方形竪穴建物跡・土坑墓などが検出されています。これらの争乱は、戦国時代末期の元亀元年（1570）に島津氏による薩摩国・大隈国・日向国の三州統一と同時に終焉を迎えます。その後、天正15年（1587）、豊臣秀吉の島津追討に伴い、平佐城において激しい戦いが繰り広げられました。この戦いは、豊臣側と島津側の和睦によって終わりを迎え、泰平寺（薩摩川内市大小路町）には和睦石が残されています。

中世の集落遺跡は、上野城跡、城下遺跡（薩摩川内市百次町）、成岡遺跡、西ノ平遺跡などで検出されており、広域流通品も多く出土しています。主なものとして、青磁・白磁・青花などの中国産貿易陶磁器、東播系の播鉢などの中世須恵器、長崎県西彼杵半島を産地とする滑石製石鍋などがあります。大島遺跡、薩摩国分寺跡、成岡遺跡、坂ノ下遺跡、後迫遺跡（薩摩川内市高城町）では、11～12世紀を流通の主体とする縦耳形石鍋が出土し、東シナ海に面する本地域の広域的な交流を示す重要な遺跡として注目されています。

### （8）江戸時代

江戸時代には薩摩藩のもと、北郷家がこの地域を治め商業が発達しました。その中心地は向田町で、水陸交通の要衝として賑わいました。川内川河口の久見崎には船手奉行所が置かれ、藩の造船所もありました。発掘調査では、18～19世紀の乾船渠が確認されています。

久見崎は、慶長2年（1597）の豊臣秀吉による朝鮮出兵（慶長の役）の際、島津勢が船出した港として有名です。天明年間（1781～1788年）には、伊地知団右衛門が天辰町に磁器窯を開きました。平佐焼と呼ばれるこの磁器は、肥前有田の技法を取り入れ、県内各地に流通し隆盛を誇りました。近年、大窯や新窯の調査によって、窯・作業小屋・石垣の形態が明らかになっています。また、昭和42年（1967）に「平佐焼窯跡」は市の指定文化財となりました。

このほか、近世・近代の鍛冶遺跡として古原遺跡、鍛冶屋馬場遺跡があります。平佐焼や鍛冶などの生産に関わる原料の搬入と製品の搬出には川内川が積極的に利用され、古来より商工業の発展に大きな役割を担ってきました。木場茶屋町には、藩政時代に藩主が参勤交代などで東上する際の休憩所（茶屋）が置かれました。

薩摩藩では鹿児島城（鶴丸城）を本城として、各地の山城周辺に「麓」（武家屋敷群）をつくり、そこに武士団を配置させました（外城制度）。本市内でも、高城、高江、水引、中郷、平佐、隈之城、山田、百次、樋脇、入来、大村、黒木、蘭牟田、里、中甕、手打に麓が形成されました。麓を構成する武家集落は現在も受け継がれ、特に入来麓武家屋敷群は中世の名残を残す町並み

として、平成15年(2003)に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

17世紀後半には東郷町斧淵に文弥節が伝わり、現在でも東郷文弥節人形浄瑠璃として演じられています。

### (9) 明治・大正・昭和(戦前)

明治新政府下では、禄制改革とともに、郡制改革も進められ、川内では百次郷と山田郷を含めて永利郷に、中郷は東郷に合併、薩摩郡のうち、平佐北郷家領であった中村・久住・楠元の3か村は平佐郷に分割編入されました。

明治4年(1871)の廃藩置県後、本市域の薩摩郡、高城郡、伊佐郡、甕島郡は鹿児島県の所屬となりました。

その後、明治10年(1877)の西南戦争では、本市域も戦場となりました。6月23日、水引一帯の布陣を整えた政府軍は、川内川を挟んで西郷軍と交戦しました。その結果、政府軍は川内一帯を占領しました。

明治14年(1881)には高城郡、伊佐郡、甕島郡は薩摩郡の隈之城郡役所の管轄となります。

明治22年(1889)には町村制施行により、高城郡水引村(明治24年<1891>)に東水引村と西水引村に分離)・高城村、薩摩郡樋脇村・入来村・上東郷村・下東郷村・永利村・高江村・隈之城村・平佐村・藺牟田村・大村・黒木村、上甕村(明治24年<1891>)に里村が分離)、下甕村が成立しました。

明治28年(1895)の日清戦争終結後、日本海軍は国内の要所に沿岸防備のために望楼台ぼうろうだいを設けました。望楼台は明治33年(1900)に寄田町よりたちょうの天狗鼻てんぐぼなにも設置され、日露戦争の際には、ロシアのバルチック艦隊の北上を監視する目的で海軍兵が常駐しました。天狗鼻海軍望楼台てんぐぼなかいぐんぼうろうだいは昭和60年(1985)に本市の史跡に指定されました。

昭和4年(1929)には隈之城村・平佐村・東水引村が合併し、川内町が成立しました。川内町は昭和15年(1940)に市制を施行し、川内市が成立しました。

### (10) アジア・太平洋戦争

昭和12年(1937)7月7日、日中軍の衝突ろこうきょうしけん(盧溝橋事件)をきっかけに日中戦争が勃発しました。また、昭和16年(1941)12月8日、真珠湾攻撃によって米英に宣戦布告し太平洋戦争が開戦しました。昭和20年(1945)には米軍による本土への空襲が始まり、鹿児島県内は3月に初めて空襲を受け、6月17日には鹿児島市が大空襲により甚大な被害を受けました。川内市街地も6~8月に空襲を受け、市役所、公会堂、警察署、川内駅などの公共施設、南国兵器工場かななみ、川南造船川内工業所などの工場が罹災しました。東郷町では、7月29日に米軍機による空襲を受け、上町で167戸が焼失しました。

### (11) 戦後~令和

昭和20年(1945)の敗戦後、町村の合併が進みました。昭和26年(1951)には水引村、昭和31年(1956)には永利村、高江村、昭和32年(1957)には東郷町の一部が川内市と合併しました。この間、樋脇村は樋脇町に、藺牟田村は祁答院町と町制を施行しました。

戦後、川内市内には工場や発電所が誘致され、順次設置されていきます。昭和29年(1954)には中越パルプ工業株式会社の川内工場が操業を開始します。

昭和39年(1964)12月には、川内市議会において原子力発電所の誘致が決議されました。昭和45年(1970)4月に1号機建設計画、昭和52年(1977)3月に2号機建設計画が発表され、それぞれ設置が許可されます。1号機は昭和59年(1984)、2号機は昭和60年(1985)に営

業運転を開始しています。

また、昭和44年（1969）には京セラ鹿児島工場（現鹿児島川内工場）が高城町に設置されました。

平成16年（2004）10月12日、川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村の1市4町4村が合併し薩摩川内市が誕生しました。平成17年（2005）には蘭牟田池がラムサール条約湿地に登録されました。平成20年（2008）には東郷文弥節人形浄瑠璃が国重要無形民俗文化財に指定されました。平成21年（2009）には「甕島のトシドン」がユネスコの無形文化遺産の新制度第1号として登録されました。また、令和6年（2024）には「川内大綱引」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。

令和6年（2024）10月12日には市誕生20周年を迎えました。

#### 4 自然災害史

本市で発生した自然災害は、記録で把握できる限りで最も多いのが、豪雨による水害、次いで台風による風水害となります。規模の大小はありますが、それら発生頻度は高いと言えます。被害は崖崩れ、河川氾濫、道路決壊、建物損壊、堤防決壊、床上・床下浸水、田畑の冠水などです。そのほかの自然災害としては、地震があります。

本市を東から西に横断している川内川は、川内平野に恩恵をもたらすと共に、洪水などの災害の危険性もはらんでいます。川内川の洪水記録が整理されはじめた1500年代から現在に至るまで約200回を超える記録があり、平均で2年に1回程度、洪水が発生しています。特に昭和40年代は大規模な水害が頻発しています。

その中でも、昭和44年（1969）の水害は多くの被害を出しました。6月28日の夕方より7月7日にかけて梅雨前線が九州に停滞し、各地に記録的な大雨を降らせました。

川内川流域で下流に位置する、本市は大きな被害を受けました。支流の春田川、平佐川などが氾濫し、薩摩川内市の中心部はほぼ全域にわたって浸水しました。この梅雨前線により、鹿児島県内では死者・行方不明者52名の人的被害を出し、家屋全半壊・流失283戸、床上浸水5,874戸、床下浸水7,448戸に達しました。

平成9年（1997）3月26日、鹿児島県北西部でM6.6の地震が発生し、阿久根市、川内市、宮之城町（現さつま町）で最大震度5強を観測しました。また、5月13日にも同地方でM6.4の地震が発生し、川内市で最大震度6弱を観測しました。

表2 薩摩川内市の災害年表

| 年            | 事 項  |
|--------------|--|
| 天平 18 (746)  | 『続日本書記』及び『大日本史』に、10月に川内川で洪水が発生したことが記されている。         |
| 天平宝字 3 (759) | 九州諸国大暴雨、8月29日南風大吹。                                 |
| 天平宝字 8 (764) | 大隈薩摩姻雲晦冥奔雲去来7月之後乃天晴。(桜島噴火)。                        |
| 天平神護 2 (766) | 日向・大隈・薩摩三国大風、桑麻損じ尽す棚戸の調庸を免ず。                       |
| 天平神護 6 (775) | 11月7日、日向・薩摩两国風雨、桑麻損尽、調庸を免ず。                        |
| 天平神護 9 (778) | 桜島噴火三島生成。  |
| 大同元 (806)    | 11月日隅薩水旱疫病につき田租1か年を免ず。                             |
| 弘仁 4 (813)   | 6月大隅・薩摩两国蝗害により未納稲を免ず。11月薩摩・大隅など五国大風、祖調を免ず。         |
| 天安 2 (858)   | 5月1日大暴風雨、官舎悉破、青苗朽失、九国二島尽破傷。                        |
| 天永 3 (1112)  | 2月霧島山西峯噴火。   |
| 嘉応元 (1169)   | 暴風雨にて洪水横流し社檀海上に流る。                                 |
| 寛喜 2 (1230)  | 九州諸国大風、8月1日申尅甚雨大風、及夜半休止、草木葉枯、稼穀損乏。                 |
| 正安 3 (1301)  | 異国船が数隻、薩摩の国の甌島に着いた。大風が吹き、異国船は忽ち姿を消したとある。           |
| 文明 8 (1476)  | 桜島噴火し岩石破裂、人畜多々死亡、数日の間降火あり。5月、10月噴火。                |
| 永祿 9 (1566)  | 霧島山噴火、人多く焚死す。                                      |
| 寛文 3 (1663)  | 春以来降雨なく初夏より大旱に及ぶ、6月・7月40余日降雨なく河川・池水も干上る。           |
| 寛文 9 (1669)  | 風水害頻発し、検使を遣して役米6合差免し、来夏麦斛無納に申付く。                   |
| 元禄 6 (1693)  | 大雨洪水あり、粥を施行す。                                      |
| 宝永 4 (1707)  | 10月、地震、海嘯あり。                                       |
| 正徳元 (1711)   | 5月鹿児島水害、橋梁多く破壊す。7月大風あり、死者を出す。                      |
| 享保 2 (1717)  | 1月噴火降灰。被害修復のため領内蔵入・給地共石別1合の出来米を課した。8月噴火。           |
| 享保 12 (1727) | 是春外城飢饉、葛等を飯料とす。年貢不足す。                              |
| 明和 6 (1769)  | 8月、大風のため薩藩にて田方十万石以上免高となる。虫害も重なる。                   |
| 安永 4 (1775)  | 4、5月の霖雨にて麦収穫皆無。翌5年は水稻大豊作。                          |
| 天明元 (1781)   | 7月薩摩・大隅・日向大風、3月12日桜島海底噴火。                          |
| 天明 2 (1782)  | 秋風水害、領内一統凶作なり、上見を行い、土・農の困窮者を救助す、焼酎醸造停止。            |
| 天明 4 (1784)  | 前後数年の凶作飢饉により、下甌手打釐50弱家族2百人余が肝付郡串良町有里字富ヶ尾に移住するに至った。 |

| 年            | 事 項   |
|--------------|---|
| 天明 6 (1786)  | 6 月水害、8 月大風水害と相続き虫害も加わり損毛甚大。  |
| 寛政 2 (1790)  | 6 月、桜島噴火、降火のため煙草損害を受く。天然痘流行。7 月麓婦人始めて疱瘡踊をなす。徳之島最も流行す。   |
| 文化 11 (1814) | 3 月、天然痘流行、入来で疱瘡踊をなす。12 月徳之島大流行。   |
| 文化 15 (1818) | 4 月、天然痘流行、入来で疱瘡踊をなす。  |
| 文政 3 (1820)  | 7 月 11 日大雨洪水、入来川の諸堰流失す。   |
| 文政 4 (1821)  | 早天続き、6 月 12 日麓仁才衆雨乞い及び虫追いをなす。   |
| 文政 5 (1822)  | 6 月 13 日諸病除として麓仁才衆打向をなす。  |
| 天保 3 (1832)  | 6 月大旱、雨乞い踊盛ん。   |
| 天保 8 (1837)  | 夏末より長雨、虫害不作、諸郷百姓の疲弊殊に甚し。  |
| 天保 13 (1842) | 稀有の大洪水。舟瀬の今村家床上浸水。  |
| 嘉永元 (1848)   | 8 月大風、天然痘流行、疱瘡踊をなす。   |
| 明治 2 (1869)  | 天然痘流行、2 月 27 日疱瘡踊をなす。   |
| 明治 8 (1875)  | 天然痘流行、3 月 24 日疱瘡踊をなす。   |
| 明治 10 (1877) | 2 月 16 日大雪、麓で積雪一尺余。   |
| 明治 11 (1878) | コレラ病県下一円に流行す。9 月下旬大暴風雨。   |
| 明治 13 (1880) | 8 月 3 日、大暴風雨、日向方面被害大。入来小学校門倒壊す。   |
| 明治 17 (1884) | 8 月 10 日暴風雨、九州諸川溢れ水害多し、8 月下旬大暴風雨。甌島も甚大な被害を受け、下甌島鹿島地区の人々は寄田地区へと集団移住をした。  |
| 明治 19 (1886) | 9 月 24 日大暴風雨、倒壊家屋多し。コレラ、天然痘流行、疱瘡踊 (3 月 6 日) の徐病祈願はこれが最後である。   |
| 明治 26 (1893) | 7 月早魘 (7 月雨量 29mm)。   |
| 明治 27 (1894) | 8 月早魘 (8 月雨量 11mm)。   |
| 明治 36 (1903) | 6 月 17 日副田温泉場大火、77 戸、113 棟焼失。   |
| 明治 39 (1906) | 11 月 13 日大暴風、増水 2 丈 1 尺 5 寸 (高江) 田畑 500 町浸水。入来川洪水。  |
| 大正 8 (1919)  | 8 月 15 日台風、県下の降雨 400 ~ 500mm。   |
| 大正 11 (1922) | 6 月 7 日、東郷村舟倉上町から出火し、約 70 戸が焼失。   |
| 大正 12 (1923) | 4 月 27 日入来町大火、24 戸 60 余棟全焼。   |
| 大正 14 (1925) | 7 月 24 日台風、9 月中に 3 回暴風。   |
| 昭和 2 (1927)  | 8 月 11 日豪雨、洪水、舟瀬橋つかる。流失家屋 1、半壊 1、浸水家屋約 3000 戸 (川内町調査のみ) の大水で田畑の被害甚大。  |
| 昭和 5 (1930)  | 7 月 18 日台風、日本記録第 3 位の大風、倒壊家屋多し、大木倒る。被害甚大。8 月 12 日台風。  |
| 昭和 7 (1932)  | 7 月 1 日豪雨、川内の浸水家屋三千戸。   |
| 昭和 18 (1943) | 大洪水により東郷小学校の校庭面より 1 m 下まで浸水し、荒川内では小学生 2 名を含む親子 4 人が溺死した。  |
| 昭和 20 (1945) | 9 月 17 日台風、枕崎で最低気圧 916hPa (枕崎台風) を記録した。   |
| 昭和 23 (1948) | 台風の際、東郷町においてシラス大地の崩壊が発生し、大きな被害を受ける。   |
| 昭和 26 (1951) | 豪雨 7 月 9 日、10 日、入来川大出水、被害多し。10 月 14 日、ルース台風。最低気圧 924hPa、串木野市に上陸。全半壊家屋、倒木多し、被害甚大。                                |
| 昭和 28 (1953) | 6 月 1 日豪雨、7 月 18 日大豪雨、宮之城線不通、6 月 7 日台風。   |
| 昭和 30 (1955) | 2 月 20 日暴風雪、21 日大雪、積雪平地で 15 ~ 30cm。7 月 8・9 日豪雨、宮之城線不通。9 月 29 日台風 22 号、瞬間風速 63m。ルース台風より被害甚大。特に水稲大被害、晩稲 5 ~ 6 割減。 |
| 昭和 32 (1957) | 7 月 27 日豪雨、川内川流域で 400mm。東郷町舟倉地区は大洪水に見舞われた。  |
| 昭和 33 (1958) | 6 月早魘 (6 月 25 日 ~ 7 月 24 日無降水)。   |
| 昭和 34 (1959) | 大雪、1 月 17・8 日、積雪平地で 45cm、八重は 1m 以上。75 年ぶり。汽車・バス不通、電柱倒る。   |
| 昭和 36 (1961) | 1 月 1 日大雪。元旦の雪は明治 21 年来のこと。積雪 22cm  |
| 昭和 37 (1962) | 1 月 27 日大雪、8 月 21 日台風川内川河口上陸。   |
| 昭和 38 (1963) | 1 月 26 日より大雪 (2 月 4 日まで雪降り続く) 平地の積雪 40cm。   |
| 昭和 39 (1964) | 9 月 24 日台風 20 号、県下被害 139 億円。  |
| 昭和 40 (1965) | 8 月 6 日台風 15 号甌島を通過、川内地方の被害が大きく、県下の被害 120 億円に及んだ。   |
| 昭和 42 (1967) | 6 月 ~ 9 月、干ばつにより県下被害 80 億円。   |

第1章 薩摩川内市の概要

| 年            | 事 項  |
|--------------|--|
| 昭和 43 (1968) | 9月24日台風16号串木野上陸、風台風県下被害139億円、宮古島で79.8メートルを記録。  |
| 昭和 44 (1969) | 6月28日～7月3日にかけての豪雨により、川内市中心部や東郷町では多くの家屋が浸水した。県下の被害173億円に及んだ。  |
| 昭和 45 (1970) | 8月14日台風9号甌島西を通過、県下被害61億円、鹿児島市で78.9メートル。  |
| 昭和 46 (1971) | 7月23日豪雨、阿久根で622mm、県下被害51億円大小路・五代地区浸水、8月5日台風19号阿久根沖を北上、県下被害196億円、五代地区浸水。  |
| 平成 9 (1997)  | 3月26日に鹿児島県北西部でM6.6の地震が発生し、川内市で最大震度5強を観測した。また、5月13日にも同地方でM6.4の地震が発生し、川内市で最大震度6弱を記録した。9月、台風19号による洪水で、川内川全流域において床上浸水264戸、床下浸水223戸、浸水面積1,271haの被害が発生し、吉松水位観測所においては過去最高の8.19mを記録した。 |
| 平成 18 (2005) | 7月18日～23日にかけて薩摩地方北部を中心に記録的な大雨となった。本市でも住宅が全壊・半壊するなどした。  |

『入来町誌』上巻（入来町、1964）、『鹿児島県災異史』（鹿児島県・鹿児島気象台、1967）、『川内市史』上巻（川内市、1976）、『東郷町郷土史』（東郷町、1969）を参考に作成

## 第2章 薩摩川内市の文化財の概要

### 1 指定等文化財の概要

本市にある文化財のうち、国・県・市によって指定・選定・登録・選択されたものは、令和8年（2026）3月1日現在で198件となっています。

指定等の主体別で見ると、国指定文化財が「薩摩国分寺跡」など18件、国選定文化財が「入来麓伝統的建造物群保存地区」1件、県指定文化財が「新田神社本殿」など17件、市指定文化財が「江ノ口橋」など157件、国登録文化財が「鹿島村離島住民生活センター（旧蘭牟田漁業組合）」など2件、国選択文化財が「甌島の葛布の紡織習俗」など3件となっています。

表3 指定等文化財一覧（令和8年〈2026〉3月1日現在）

| 類 型     |            | 国     |    |    | 県  | 市   | 合計  |    |
|---------|------------|-------|----|----|----|-----|-----|----|
|         |            | 指定・選定 | 選択 | 登録 | 指定 | 指定  |     |    |
| 有形文化財   | 建造物        | 1     | －  | 2  | 2  | 6   | 11  |    |
|         | 美術工芸品      | 絵画    | 0  | －  | 0  | 0   | 0   | 0  |
|         |            | 彫刻    | 0  | －  | 0  | 2   | 8   | 10 |
|         |            | 工芸品   | 3  | －  | 0  | 0   | 0   | 3  |
|         |            | 書跡・典籍 | 0  | －  | 0  | 1   | 0   | 0  |
|         |            | 古文書   | 1  | －  | 0  | 0   | 1   | 2  |
|         |            | 考古資料  | 0  | －  | 0  | 1   | 3   | 4  |
|         |            | 歴史資料  | 1  | －  | 0  | 0   | 21  | 22 |
| 無形文化財   |            | 0     | 0  | 0  | 0  | 0   | 0   |    |
| 民俗文化財   | 有形の民俗文化財   | 0     | －  | 0  | 2  | 12  | 14  |    |
|         | 無形の民俗文化財   | 3     | 3  | 0  | 6  | 31  | 43  |    |
| 記念物     | 遺跡         | 2     | －  | 0  | 1  | 65  | 68  |    |
|         | 名勝地        | 0     | －  | 0  | 0  | 1   | 1   |    |
|         | 動物・植物・地質鉱物 | 7     | －  | 0  | 2  | 9   | 18  |    |
| 文化的景観   |            | 0     | －  | －  | －  | －   | 0   |    |
| 伝統的建造物群 |            | 1     | －  | －  | －  | －   | 1   |    |
| 合 計     |            | 19    | 3  | 2  | 17 | 157 | 198 |    |

表4 国指定・選定・選択・登録文化財一覧（令和8年〈2026〉3月1日現在）

| 区分    |             | 名称                         | 地域 | 指定年月日       |
|-------|-------------|----------------------------|----|-------------|
| 有形文化財 | 建造物         | 旧増田家住宅 附石敢当                | 入来 | 平成26年12月10日 |
| 有形文化財 | 美術工芸品（工芸品）  | 銅鏡 花鳥文様 永仁二年三月十八日施入ノ銘アリ 一面 | 川内 | 大正7年4月8日    |
| 有形文化財 | 美術工芸品（工芸品）  | 柏樹鷹狩鏡 一面                   | 川内 | 昭和28年11月14日 |
| 有形文化財 | 美術工芸品（工芸品）  | 秋草蝶鳥鏡 一面                   | 川内 | 昭和28年11月14日 |
| 有形文化財 | 美術工芸品（古文書）  | 新田神社文書（百二十四通）九巻、一枚         | 川内 | 昭和58年6月6日   |
| 有形文化財 | 美術工芸品（歴史資料） | 船大工樗木家関係資料                 | 川内 | 平成7年6月15日   |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財    | 川内大綱引                      | 川内 | 令和6年3月21日   |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財    | 東郷文弥節人形浄瑠璃                 | 東郷 | 平成20年3月13日  |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財    | 甌島のトシドン                    | 下甌 | 昭和52年5月17日  |
| 記念物   | 遺跡          | 薩摩国分寺跡                     | 川内 | 昭和19年11月13日 |
| 記念物   | 遺跡          | 清色城跡                       | 入来 | 平成16年9月30日  |
| 記念物   | 動物・植物・地質鉱物  | 永利のオガタマノキ                  | 川内 | 昭和19年11月13日 |
| 記念物   | 動物・植物・地質鉱物  | 藤川天神の臥龍梅                   | 東郷 | 昭和16年10月3日  |

第2章 薩摩川内市の文化財の概要

| 区分      |              | 名称                      | 地域            | 指定年月日       |
|---------|--------------|-------------------------|---------------|-------------|
| 記念物     | 動物・植物・地質鉱物   | 蘭牟田池の泥炭形成植物群落           | 祁答院           | 大正10年3月3日   |
| 記念物     | 動物・植物・地質鉱物   | 甌島片野浦のカノコユリ群落           | 下甌            | 令和8年2月17日   |
| 記念物     | 動物・植物・地質鉱物   | へゴ自生北限地帯                | 里<br>上甌<br>下甌 | 大正15年10月27日 |
| 記念物     | 動物・植物・地質鉱物   | カラスバト                   | -             | 昭和46年5月19日  |
| 記念物     | 動物・植物・地質鉱物   | 甌島長目の浜及び潟湖群の植生群落        | 里<br>上甌       | 平成27年3月10日  |
| 伝統的建造物群 |              | 薩摩川内市入来麓伝統的建造物群保存地区     | 入来            | 平成15年12月25日 |
| 民俗文化財   | 無形の民俗文化財（選択） | 薩摩川内の大綱引                | 川内            | 平成31年3月28日  |
| 民俗文化財   | 無形の民俗文化財（選択） | 東郷人形浄瑠璃                 | 東郷            | 昭和54年12月7日  |
| 民俗文化財   | 無形の民俗文化財（選択） | 甌島の葛布の紡織習俗              | -             | 昭和45年3月1日   |
| 有形文化財   | 建造物（登録）      | 新大橋                     | 入来            | 平成16年11月8日  |
| 有形文化財   | 建造物（登録）      | 鹿島村離島住民生活センター（旧蘭牟田漁業組合） | 鹿島            | 平成13年8月28日  |

表5 県指定文化財一覧（令和8年〈2026〉3月1日現在）

| 区分    |              | 名称                           | 地域 | 指定年月日       |
|-------|--------------|------------------------------|----|-------------|
| 有形文化財 | 建造物          | 新田神社本殿 拝殿 舞殿 勅使殿 両脇摂社        | 川内 | 平成2年3月23日   |
| 有形文化財 | 建造物          | 藤田家住宅 オモチ ナカエ 附 附属屋 氏神 石垣 石門 | 入来 | 令和7年4月30日   |
| 有形文化財 | 美術工芸品（彫刻）    | 阿弥陀如来坐像 一軀<br>両脇侍像 二軀        | 川内 | 昭和62年3月16日  |
| 有形文化財 | 美術工芸品（彫刻）    | 薩摩川内市入来町の木造阿弥陀三尊像 附 木造 僧形立像  | 入来 | 令和7年4月30日   |
| 有形文化財 | 美術工芸品（書跡・典籍） | 里八幡神社の大般若波羅密多經               | 里  | 平成30年4月20日  |
| 有形文化財 | 美術工芸品（考古資料）  | 天辰寺前古墳出土品                    | 川内 | 平成25年4月23日  |
| 民俗文化財 | 有形の民俗文化財     | 入来町仲組の田の神                    | 入来 | 昭和41年3月11日  |
| 民俗文化財 | 有形の民俗文化財     | 甌島の植物繊維衣料                    | 下甌 | 平成17年4月19日  |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財     | 南方神社春祭に伴う芸能（田打）              | 川内 | 昭和37年10月24日 |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財     | 新田神社の御田植祭に伴う芸能（奴踊、棒踊）        | 川内 | 昭和38年6月17日  |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財     | 久見崎盆踊（想夫恋）                   | 川内 | 昭和46年5月31日  |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財     | 入来町の抱瘡踊                      | 入来 | 昭和38年6月17日  |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財     | 入来神舞（大宮神社例祭に伴う芸能）            | 入来 | 令和2年4月28日   |
| 民俗文化財 | 無形の民俗文化財     | 甌島の内侍舞                       | 里  | 平成13年4月27日  |
| 記念物   | 遺跡           | 天辰寺前古墳                       | 川内 | 平成25年4月23日  |
| 記念物   | 動物・植物・地質鉱物   | オニバス自生地                      | 川内 | 昭和30年1月14日  |
| 記念物   | 動物・植物・地質鉱物   | 下甌島夜萩円山断崖の白亜系姫浦層群            | 鹿島 | 平成25年4月23日  |

表6 市指定文化財一覧（令和8年〈2026〉3月1日現在）

| No. | 区分              | 名称          | 地域 | 指定年月日      |
|-----|-----------------|-------------|----|------------|
| 1   | 有形文化財 建造物       | 江之口橋        | 川内 | 昭和47年4月1日  |
| 2   | 有形文化財 建造物       | 降来橋と擬宝珠     | 川内 | 昭和61年3月26日 |
| 3   | 有形文化財 建造物       | 兼喜神社本殿および拝殿 | 川内 | 昭和61年3月26日 |
| 4   | 有形文化財 建造物       | 笹野橋         | 東郷 | 平成7年6月12日  |
| 5   | 有形文化財 建造物       | かやぶき門       | 入来 | 昭和57年3月16日 |
| 6   | 有形文化財 建造物       | 田中邸の漆喰壁土蔵   | 入来 | 平成6年2月8日   |
| 7   | 有形文化財 美術工芸品（彫刻） | 福昌寺仁王石像     | 川内 | 昭和60年3月27日 |
| 8   | 有形文化財 美術工芸品（彫刻） | 天福寺阿弥陀如来像   | 川内 | 平成4年3月25日  |

| No. | 区分                 | 名称                    | 地域  | 指定年月日       |
|-----|--------------------|-----------------------|-----|-------------|
| 9   | 有形文化財 美術工芸品 (彫刻)   | 三島仁王像                 | 樋脇  | 昭和50年9月1日   |
| 10  | 有形文化財 美術工芸品 (彫刻)   | 松尾神社の木像               | 東郷  | 昭和46年7月13日  |
| 11  | 有形文化財 美術工芸品 (彫刻)   | 南瀬山之口の虚空蔵菩薩像          | 東郷  | 平成7年6月12日   |
| 12  | 有形文化財 美術工芸品 (彫刻)   | 昌了寺跡の仁王像              | 入来  | 昭和62年3月7日   |
| 13  | 有形文化財 美術工芸品 (彫刻)   | 山王岳木造仏三尊像             | 祁答院 | 平成15年3月1日   |
| 14  | 有形文化財 美術工芸品 (彫刻)   | 円明院仁王像                | 祁答院 | 平成15年3月1日   |
| 15  | 有形文化財 美術工芸品 (古文書)  | 宥印法印文書                | 川内  | 昭和61年3月26日  |
| 16  | 有形文化財 美術工芸品 (考古資料) | 清水寺経壺                 | 川内  | 昭和60年3月27日  |
| 17  | 有形文化財 美術工芸品 (考古資料) | 青磁蓮花唐草文碗 青磁櫛描き文皿      | 川内  | 平成7年3月24日   |
| 18  | 有形文化財 美術工芸品 (考古資料) | 石笛                    | 里   | 昭和57年2月1日   |
| 19  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 宥印法印の墓                | 川内  | 昭和42年9月23日  |
| 20  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 平佐焼絵形                 | 川内  | 昭和46年11月1日  |
| 21  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 森殿原の宝塔                | 川内  | 昭和56年12月5日  |
| 22  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 薩摩国分寺層塔               | 川内  | 昭和60年3月27日  |
| 23  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 太平橋架橋碑                | 川内  | 昭和61年3月26日  |
| 24  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 熊野神社板碑                | 川内  | 平成元年9月26日   |
| 25  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 泰平寺住僧墓                | 川内  | 平成4年3月25日   |
| 26  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | ロザリオ聖母踏絵              | 川内  | 平成4年3月25日   |
| 27  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 東郷渋谷氏宝篋印塔             | 樋脇  | 昭和50年9月1日   |
| 28  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 霧島若宮神社の宝塔残欠           | 樋脇  | 昭和50年9月1日   |
| 29  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 倉野殿墓                  | 樋脇  | 昭和50年9月1日   |
| 30  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 樋脇郷鳥瞰図                | 樋脇  | 昭和63年6月24日  |
| 31  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 経塚山板碑                 | 東郷  | 昭和46年7月13日  |
| 32  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 南瀬観音古石塔群              | 東郷  | 昭和57年11月10日 |
| 33  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 穴野殿古石塔群               | 東郷  | 平成12年12月8日  |
| 34  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 船瀬殿墓                  | 入来  | 昭和62年3月7日   |
| 35  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 大村郷絵地図                | 祁答院 | 昭和58年4月21日  |
| 36  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 蘭牟田郷諸家系図帳             | 祁答院 | 昭和58年4月21日  |
| 37  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 宇都六地藏塔                | 祁答院 | 昭和58年4月21日  |
| 38  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 下甕嶋蘭牟田村御檢地台帳他四冊       | 鹿島  | 昭和52年6月20日  |
| 39  | 有形文化財 美術工芸品 (歴史資料) | 鹿島のどん (梵鐘)            | 鹿島  | 平成16年7月27日  |
| 40  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 宮里田の神石像               | 川内  | 昭和56年12月5日  |
| 41  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 松下田庚申塔                | 川内  | 昭和56年12月5日  |
| 42  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 尾白江庚申供養燈籠             | 川内  | 昭和56年12月5日  |
| 43  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 今村庚申塔                 | 川内  | 平成7年3月24日   |
| 44  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 本庵の田の神                | 樋脇  | 昭和62年1月10日  |
| 45  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 祢地山の田の神               | 樋脇  | 昭和62年1月10日  |
| 46  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 石堂の田の神                | 東郷  | 平成2年5月15日   |
| 47  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 山田玉田の田の神              | 東郷  | 平成2年5月15日   |
| 48  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 山田下の女田の神              | 東郷  | 平成2年5月15日   |
| 49  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 松下田の田の神               | 入来  | 昭和57年3月16日  |
| 50  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | 蘭牟田麓西の石敢当             | 祁答院 | 平成15年3月1日   |
| 51  | 民俗文化財 有形の民俗文化財     | ツーク                   | 鹿島  | 平成13年12月17日 |
| 52  | 民俗文化財 無形の民俗文化財     | 次郎次郎踊 (射勝神社春祭に伴う芸能)   | 川内  | 昭和56年12月5日  |
| 53  | 民俗文化財 無形の民俗文化財     | 飯母鷹踊                  | 川内  | 平成7年3月24日   |
| 54  | 民俗文化財 無形の民俗文化財     | 高城町太鼓踊 (高城神社例祭に伴う芸能)  | 川内  | 平成7年3月24日   |
| 55  | 民俗文化財 無形の民俗文化財     | 中郷虚無僧踊 (諏訪神社例祭に伴う芸能)  | 川内  | 平成7年3月24日   |
| 56  | 民俗文化財 無形の民俗文化財     | 一條神社太鼓踊 (一條神社祭礼に伴う芸能) | 川内  | 平成30年8月27日  |
| 57  | 民俗文化財 無形の民俗文化財     | 中郷太鼓踊 (諏訪神社夏の例祭に伴う芸能) | 川内  | 平成30年8月27日  |
| 58  | 民俗文化財 無形の民俗文化財     | 高江太鼓踊 (南方神社秋祭に伴う芸能)   | 川内  | 平成30年8月27日  |

第2章 薩摩川内市の文化財の概要

| No. | 区分                | 名称                        | 地域 | 指定年月日       |
|-----|-------------------|---------------------------|----|-------------|
| 59  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 城上町太鼓踊（児美神社例祭に伴う芸能）       | 川内 | 平成30年8月27日  |
| 60  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 倉野太鼓踊（諏訪神社例祭に伴う芸能）        | 樋脇 | 昭和48年3月14日  |
| 61  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 樋脇武士踊                     | 樋脇 | 昭和48年3月14日  |
| 62  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 上手太鼓踊                     | 樋脇 | 昭和48年3月14日  |
| 63  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 塔之原一区太鼓踊・花尾楽（諏訪神社夏祭に伴う芸能） | 樋脇 | 昭和48年3月14日  |
| 64  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 野下鎌踊                      | 樋脇 | 昭和48年3月14日  |
| 65  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 藤本棒踊                      | 樋脇 | 昭和48年3月14日  |
| 66  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 岩下棒踊（熊野神社例祭に伴う芸能）         | 樋脇 | 昭和48年3月14日  |
| 67  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 南瀬の太鼓踊                    | 東郷 | 昭和46年7月13日  |
| 68  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 山田楽                       | 東郷 | 昭和46年7月13日  |
| 69  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 南瀬下の太鼓踊（アケスメロ）            | 東郷 | 平成7年6月12日   |
| 70  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 朝陽太鼓踊（諏訪神社例祭に伴う芸能）        | 入来 | 平成元年6月21日   |
| 71  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 山下太鼓踊（諏訪神社例祭に伴う芸能）        | 入来 | 平成元年6月21日   |
| 72  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 下手太鼓踊（諏訪神社例祭に伴う芸能）        | 入来 | 平成元年6月21日   |
| 73  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 大馬越太鼓踊（鷹子神社例祭に伴う芸能）       | 入来 | 平成30年8月27日  |
| 74  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 元村楽太鼓踊（諏訪神社例祭に伴う芸能）       | 入来 | 平成30年8月27日  |
| 75  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 武士踊                       | 下甕 | 平成27年3月26日  |
| 76  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 青瀬ヤンハ                     | 下甕 | 平成27年3月26日  |
| 77  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 網持ちばやし                    | 下甕 | 平成27年3月26日  |
| 78  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 出羽踊                       | 下甕 | 平成27年3月26日  |
| 79  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | シアノーノー                    | 下甕 | 平成27年3月26日  |
| 80  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 鹿島のトシドン                   | 鹿島 | 平成13年12月17日 |
| 81  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | 里の武者踊                     | 里  | 昭和57年2月1日   |
| 82  | 民俗文化財<br>無形の民俗文化財 | さっころ踊                     | 里  | 昭和57年2月1日   |
| 83  | 記念物<br>遺跡         | 平佐焼窯跡                     | 川内 | 昭和42年9月23日  |
| 84  | 記念物<br>遺跡         | 和睦石                       | 川内 | 昭和42年9月23日  |
| 85  | 記念物<br>遺跡         | 船間島古墳                     | 川内 | 昭和46年11月1日  |
| 86  | 記念物<br>遺跡         | 北郷家墓地                     | 川内 | 昭和56年12月5日  |
| 87  | 記念物<br>遺跡         | 鳥追の杜                      | 川内 | 昭和60年3月27日  |
| 88  | 記念物<br>遺跡         | 戸田観音石塔群等                  | 川内 | 昭和60年3月27日  |
| 89  | 記念物<br>遺跡         | 久住阿弥陀山磨崖仏                 | 川内 | 昭和60年3月27日  |
| 90  | 記念物<br>遺跡         | 天狗鼻海軍望楼台                  | 川内 | 昭和60年3月27日  |
| 91  | 記念物<br>遺跡         | 大源寺跡入来院氏関係石塔群             | 川内 | 昭和61年3月26日  |
| 92  | 記念物<br>遺跡         | 島津歳久及び殉死者の供養塔             | 川内 | 平成元年9月26日   |
| 93  | 記念物<br>遺跡         | 高城氏石塔群                    | 川内 | 平成元年9月26日   |
| 94  | 記念物<br>遺跡         | 北山寺住僧墓                    | 川内 | 平成元年9月26日   |
| 95  | 記念物<br>遺跡         | 水引経塚                      | 川内 | 平成元年9月26日   |
| 96  | 記念物<br>遺跡         | 横岡古墳                      | 川内 | 平成4年3月25日   |
| 97  | 記念物<br>遺跡         | 桃花山浄興寺跡石塔群                | 川内 | 平成7年3月24日   |
| 98  | 記念物<br>遺跡         | 上野氏関係石塔群                  | 川内 | 平成11年4月22日  |
| 99  | 記念物<br>遺跡         | 瑠璃光寺跡石塔群                  | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 100 | 記念物<br>遺跡         | 倉野磨崖仏                     | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 101 | 記念物<br>遺跡         | 倉野六地藏塔                    | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 102 | 記念物<br>遺跡         | 木下逆修塔群                    | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 103 | 記念物<br>遺跡         | 笹嶺馬頭観音                    | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 104 | 記念物<br>遺跡         | 塔之原殿墓                     | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 105 | 記念物<br>遺跡         | 薬師堂荒神石塔                   | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 106 | 記念物<br>遺跡         | 愛宕山勝軍地藏                   | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |
| 107 | 記念物<br>遺跡         | 樋脇郷地頭仮屋跡                  | 樋脇 | 昭和50年9月1日   |

| No. | 区分  |            | 名称          | 地域  | 指定年月日      |
|-----|-----|------------|-------------|-----|------------|
| 108 | 記念物 | 遺跡         | 快慶入定の石室     | 樋脇  | 昭和50年9月1日  |
| 109 | 記念物 | 遺跡         | 祢礼北六地藏塔     | 樋脇  | 昭和50年9月1日  |
| 110 | 記念物 | 遺跡         | 市比野駅の跡      | 樋脇  | 昭和50年9月1日  |
| 111 | 記念物 | 遺跡         | 玄豊寺跡石塔群     | 樋脇  | 昭和50年9月1日  |
| 112 | 記念物 | 遺跡         | 阿弥陀殿の岩仏     | 樋脇  | 昭和50年9月1日  |
| 113 | 記念物 | 遺跡         | 牛鼻の逆修塔群     | 樋脇  | 昭和50年9月1日  |
| 114 | 記念物 | 遺跡         | 永田十三仏塔      | 樋脇  | 昭和54年12月1日 |
| 115 | 記念物 | 遺跡         | 後醍醐院源良任之墓   | 樋脇  | 平成元年1月23日  |
| 116 | 記念物 | 遺跡         | 下岩戸のかくれ念仏   | 樋脇  | 平成14年4月25日 |
| 117 | 記念物 | 遺跡         | 香積寺跡石塔群等    | 東郷  | 昭和46年7月13日 |
| 118 | 記念物 | 遺跡         | 小路磨崖仏       | 東郷  | 昭和50年7月28日 |
| 119 | 記念物 | 遺跡         | 司野古石塔群      | 東郷  | 平成2年5月15日  |
| 120 | 記念物 | 遺跡         | 山田古石塔群      | 東郷  | 平成2年5月15日  |
| 121 | 記念物 | 遺跡         | 古城殿石塔       | 東郷  | 平成2年5月15日  |
| 122 | 記念物 | 遺跡         | 渋谷重親墓碑      | 東郷  | 平成2年5月15日  |
| 123 | 記念物 | 遺跡         | お石塔         | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 124 | 記念物 | 遺跡         | いくさ墓        | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 125 | 記念物 | 遺跡         | 渋谷有重の墓塔     | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 126 | 記念物 | 遺跡         | 大永板碑        | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 127 | 記念物 | 遺跡         | 天文板碑        | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 128 | 記念物 | 遺跡         | 下手の十三仏塔     | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 129 | 記念物 | 遺跡         | 麓下の三十三観音塔   | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 130 | 記念物 | 遺跡         | 旦那墓         | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 131 | 記念物 | 遺跡         | 神籠岳の環状列石    | 入来  | 昭和57年3月16日 |
| 132 | 記念物 | 遺跡         | 栗下磨崖仏       | 入来  | 昭和62年3月7日  |
| 133 | 記念物 | 遺跡         | 般者殿墓        | 入来  | 平成元年6月21日  |
| 134 | 記念物 | 遺跡         | 入来院重高墓塔     | 入来  | 平成15年5月9日  |
| 135 | 記念物 | 遺跡         | 屋所石塔群       | 祁答院 | 昭和52年4月1日  |
| 136 | 記念物 | 遺跡         | 大乘妙典千部塔     | 祁答院 | 昭和58年4月21日 |
| 137 | 記念物 | 遺跡         | 岩屋観音磨崖仏     | 祁答院 | 昭和58年4月21日 |
| 138 | 記念物 | 遺跡         | 永源寺跡石塔群     | 祁答院 | 平成15年3月1日  |
| 139 | 記念物 | 遺跡         | 大村古城跡       | 祁答院 | 平成15年3月1日  |
| 140 | 記念物 | 遺跡         | 良重寺跡石塔群     | 祁答院 | 平成15年3月1日  |
| 141 | 記念物 | 遺跡         | 龍盛寺跡石塔群     | 祁答院 | 平成15年3月1日  |
| 142 | 記念物 | 遺跡         | 大翁寺跡石塔群等    | 祁答院 | 平成15年3月1日  |
| 143 | 記念物 | 遺跡         | 江崎鼻祈願銘文     | 下甌  | 昭和48年4月1日  |
| 144 | 記念物 | 遺跡         | 蘭落丘のかくれ念仏   | 鹿島  | 昭和52年6月20日 |
| 145 | 記念物 | 遺跡         | 亀城跡         | 里   | 昭和56年3月6日  |
| 146 | 記念物 | 遺跡         | 小川の森        | 里   | 昭和56年3月6日  |
| 147 | 記念物 | 遺跡         | 隠山のかくれ念仏    | 里   | 昭和56年3月6日  |
| 148 | 記念物 | 名勝地        | 瀬尾瀑布(滝の観音)  | 下甌  | 昭和48年4月1日  |
| 149 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 新田神社の大樟     | 川内  | 昭和46年11月1日 |
| 150 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 久見崎ハマボウ自生地  | 川内  | 平成12年8月1日  |
| 151 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 久留須梅        | 東郷  | 平成2年5月15日  |
| 152 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 諏訪神社のイスノキ   | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 153 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 鷹之巣神社のイチイガシ | 入来  | 昭和49年7月1日  |
| 154 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | ウミネコ繁殖地     | 鹿島  | 昭和52年6月20日 |
| 155 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 珊瑚群生地       | 鹿島  | 昭和52年6月20日 |
| 156 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 梶原家の大ソテツ    | 鹿島  | 昭和52年6月20日 |
| 157 | 記念物 | 動物・植物・地質鉱物 | 徳船寺境内及周辺樹林  | 鹿島  | 昭和52年6月20日 |





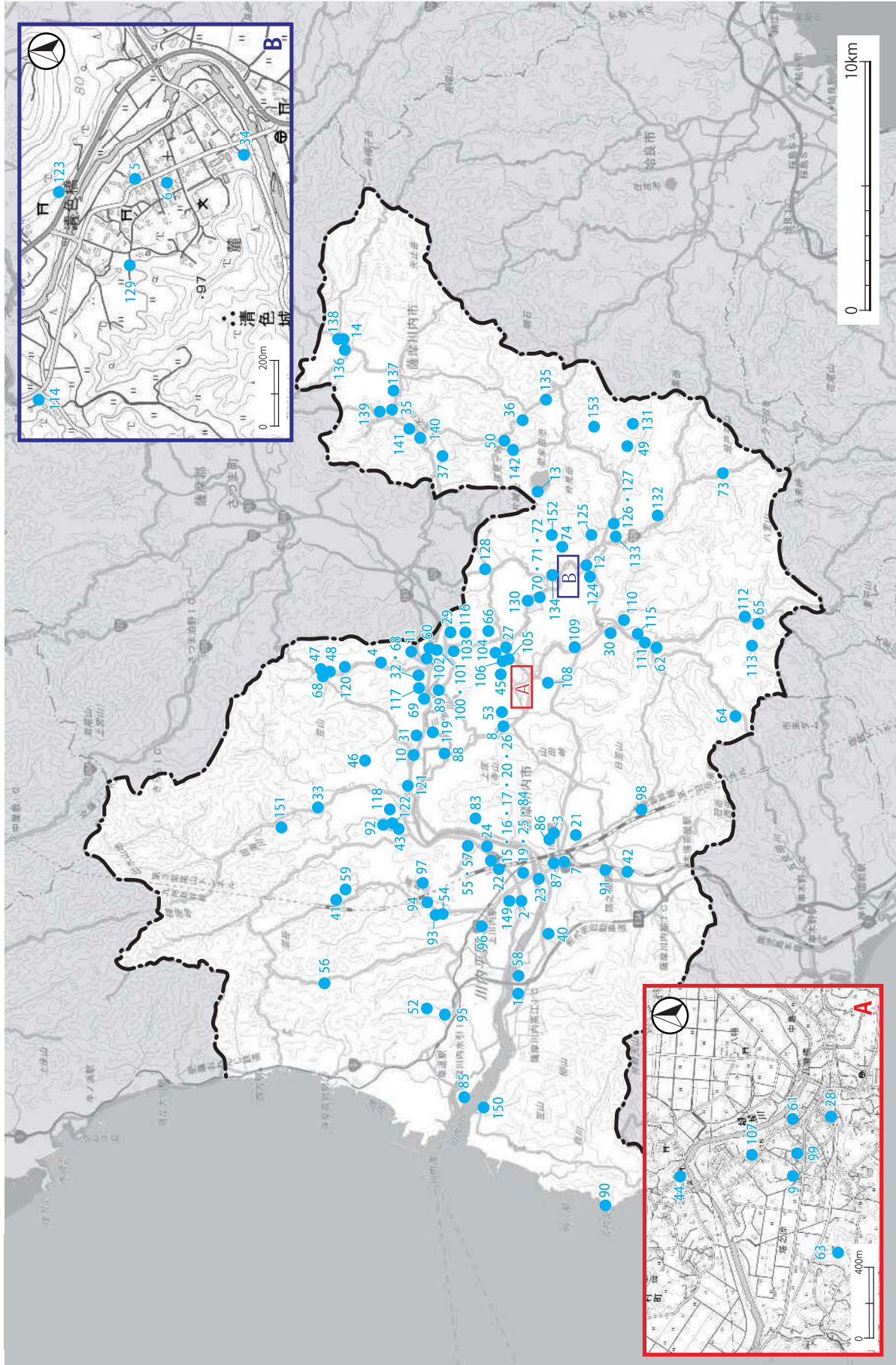


図 20 市指定文化財分布図（本土）（令和8年（2026）3月1日現在） ※図中の番号は表■の番号に対応

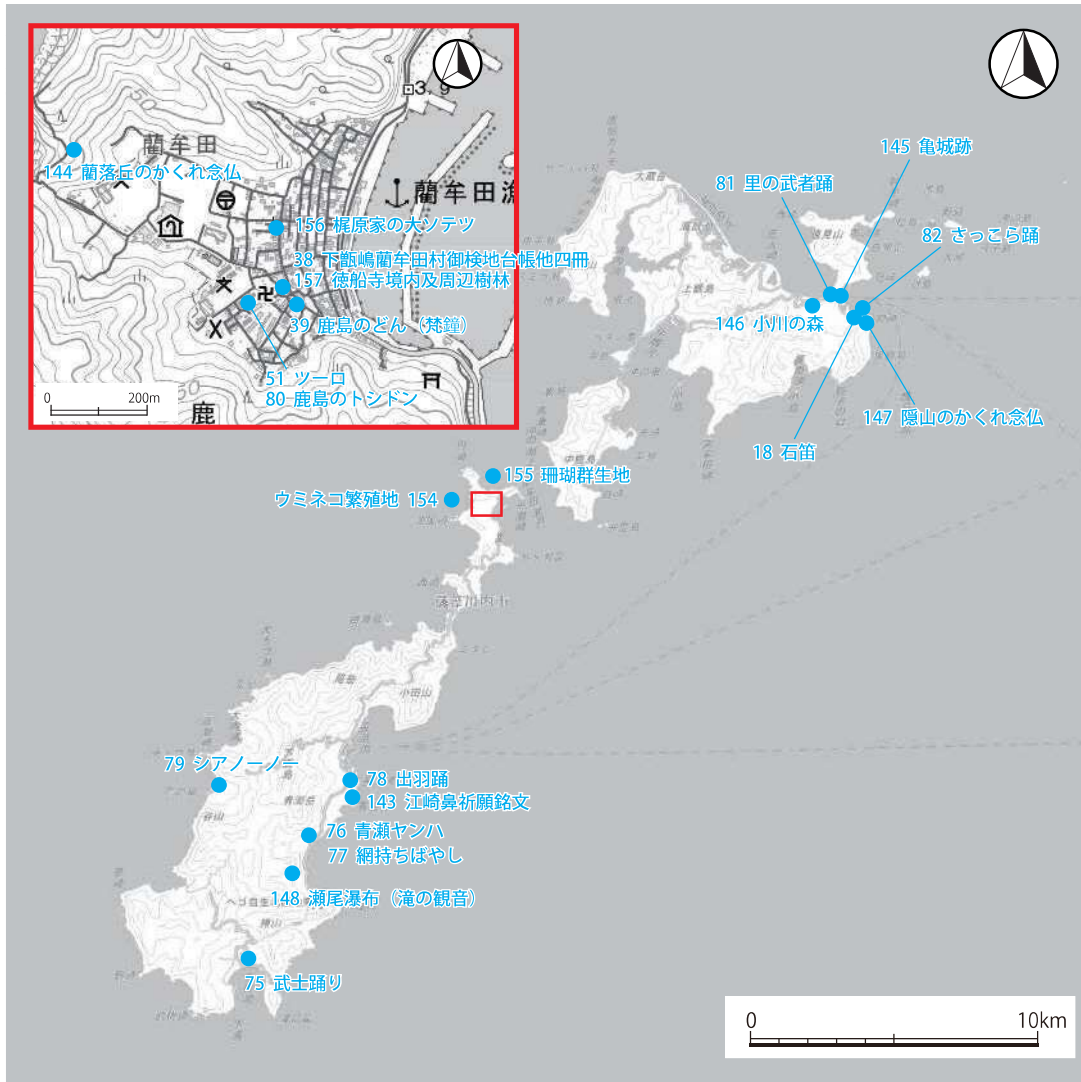


図 21 市指定文化財分布図（甑島）（令和8年〈2026〉3月1日現在）

2 未指定文化財の種類ごとの概要

令和8年（2026）3月現在、2,668件の未指定文化財を把握しています。市史や調査報告書、地域資源マップなどから未指定の文化財を抽出した結果が表7です。なお、未指定文化財の区分や種別については、今後の調査などの結果を踏まえて変わる可能性があります。また、追跡調査が及んでいない分野については、件数が変動する可能性があります。

市内に所在する未指定文化財は、文化財の6類型のうち有形の民俗文化財が多くを占めます。その中でも石造物が多数を占めています。次いで、有形文化財の建造物、美術工芸品と続きます。

表7 未指定文化財一覧（令和8年〈2026〉3月1日現在）

| 類 型      |            | 川内    | 樋脇  | 入来  | 東郷  | 祁答院 | 里  | 上甕 | 下甕  | 鹿島 | 合計   |     |
|----------|------------|-------|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|----|------|-----|
| 有形文化財    | 建造物        | 234   | 26  | 27  | 29  | 26  | 5  | 22 | 14  | 2  | 386  |     |
|          | 美術工芸品      | 絵画    | 0   | 0   | 4   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  | 0    | 4   |
|          |            | 彫刻    | 320 | 2   | 3   | 2   | 37 | 2  | 0   | 5  | 0    | 374 |
|          |            | 工芸品   | 1   | 0   | 11  | 0   | 2  | 0  | 0   | 0  | 0    | 14  |
|          |            | 書跡・典籍 | 0   | 0   | 1   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  | 0    | 1   |
|          |            | 古文書   | 0   | 0   | 1   | 0   | 1  | 0  | 1   | 0  | 0    | 3   |
|          |            | 考古資料  | 1   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  | 0    | 1   |
| 歴史資料     | 0          | 0     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  |      |     |
| 無形文化財    |            | 0     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  | 0    |     |
| 民俗文化財    | 有形の民俗文化財   | 1001  | 30  | 63  | 49  | 87  | 33 | 7  | 236 | 0  | 1506 |     |
|          | 無形の民俗文化財   | 19    | 1   | 14  | 6   | 21  | 1  | 4  | 11  | 2  | 79   |     |
| 記念物      | 遺跡         | 110   | 19  | 39  | 17  | 30  | 7  | 8  | 19  | 0  | 249  |     |
|          | 名勝地        | 0     | 0   | 0   | 0   | 1   | 1  | 0  | 8   | 0  | 10   |     |
|          | 動物・植物・地質鉱物 | 0     | 1   | 2   | 0   | 2   | 0  | 1  | 0   | 0  | 6    |     |
| 文化的景観    |            | 0     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  | 0    |     |
| 埋蔵文化財    |            | 0     | 3   | 3   | 0   | 1   | 1  | 2  | 2   | 0  | 12   |     |
| 文化財の保存技術 |            | 0     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0   | 0  | 0    |     |
| 伝統的建造物群  |            | 8     | 1   | 0   | 1   | 3   | 1  | 1  | 2   | 0  | 17   |     |
| その他の資源   |            | 2     | 0   | 0   | 0   | 1   | 0  | 0  | 2   | 1  | 6    |     |
| 合 計      |            | 1697  | 83  | 171 | 104 | 212 | 51 | 46 | 299 | 5  | 2668 |     |

### 3 歴史文化遺産の類型ごとの概要

#### (1) 有形文化財

##### 1) 建造物

「旧増田家住宅」は入来麓伝統的建造物群保存地区内にある武家住宅です。主屋は明治6年(1873)頃に建てられた、「なかえ」と「おもて」を連結した伝統的な分棟型形式で、屋根は茅葺かやぶきです。敷地内には、大正7年(1918)に建てられた石蔵や大正期に建てられた浴室便所、洗い場なども現存しています。「旧増田家住宅」は近世の武家住宅の形式を継承しながら、平面構成や規模の変化が近代への移行を示唆している点が特徴です。



写真1 旧増田家住宅

屋敷構えは大正期までに整えられ、入来麓伝統的建造物群保存地区を代表する近代住居です。

平成22年度(2010)からの保存整備事業を経て、平成25年度(2013)より一般公開され、平成26年(2014)には国の重要文化財に指定されました。現在は、建築や暮らしの歴史を伝える文化財として、地域の歴史教育や観光資源としても活用されています。

「鹿島村離島住民生活センター(旧蘭牟田漁業組合)」は、本市鹿島町蘭牟田に所在し、昭和5年(1930)に漁業組合の事務所として建設された、鉄筋コンクリート造2階建の建物です。建築面積は116㎡で、正面右手には平屋建ての氷室ひむろが併設されています。



写真2 鹿島村離島住民生活センター(旧蘭牟田漁業組合)

軒や壁面にアール・デコ建築の意匠いしょうが施された装飾的な外観を特徴とし、離島における初期鉄筋コンクリート建築として貴重な一例となっています。

平成13年(2001)には、こうした歴史的・建築的価値が評価され、国の登録有形文化財となりました。現在は、蘭牟田漁港に隣接する歴史的景観の一部として保存が図られています。

本市指定文化財の「江ノ口橋」は、高江町の八間川はっけんがわ河口に架かる二連アーチの石造眼鏡橋です。薩摩では甲突川こうつきがわ五石橋ごせつきょう(甲突川に架かる五つの石橋。上流から玉江橋、新上橋しんかんばし、西田橋せいだばし、高麗橋こうらいばし、武之橋たけのはし)などを架橋した肥後の石工岩永三五郎が、嘉永2年(1849)に架橋した石橋です。



写真3 江ノ口橋

未指定文化財は、神社建築が最も多くみられますが、その多くは建立年代が不詳です。次いで石橋が多く、これらは近代に造られたものが多くみられます。

##### 2) 美術工芸品

###### ○彫刻

「三島仁王像」(一対)は、江戸時代の薩摩の仏師當士徳能(大磯作弥)によって作られました。しかし、明治時代初期の廃仏毀釈によりどちらも上半身と下半身に割られており、それぞれが離れた場所(上半身は近くの瑠璃光寺跡)で発見されました。仁王像は、昭和46年4月に現在地に復元されました。なお、裏面にはそれぞれに刻銘がなされており、向かって右の像には仏師當士徳能と



写真4 三島仁王像

石工塚田平三の刻銘があります。

昭和50年（1975）に市指定有形文化財として指定されました。

未指定文化財は、石造物を多く把握していますが完形のものは少なく、これらは廃仏毀釈の影響が想定されます。また、一部には木造の仏像も把握されています。

○工芸品

新田神社所蔵の古鏡73面のうち、3面が国の重要文化財に指定されています。その中の一つ「銅鏡 花鳥文様 永仁二年三月十八日施入ノ銘アリ 一面」（大正7年〈1918〉指定）は裏面に「永仁二年三月十八日施入ノ銘」と刻まれており、永仁2年（1294）頃の製作と考えられています。鏡面には精緻な花鳥の意匠が表現されており、当時の鑄造技術の高さと審美性を示しています。鏡自体は保存状態も良好で、鎌倉時代の金属工芸の実例として学術的価値が高く評価されています。



写真5 銅鏡 花鳥文様

未指定文化財は、甲冑や刀などが把握されており、その一部は入来郷土館に収蔵されています。

○古文書

「新田神社文書（百二十四通）」は、旧宮司家の執印家伝来の文書七卷（九二通）、旧祠官家の権執印家伝来の文書一卷（三〇通）及び寛文五年の新田宮縁起一卷、天正十五年の小西行長等連署制札一枚からなります。本文書は、執印家、権執印家両家の鎌倉・南北朝時代の動向とその領主制のあり方、および中世一宮の変遷の歴史を具体的に伝えており、中世史研究上に注目されるものです。



写真6 新田神社文書

昭和58年（1983）に国の重要文化財に指定されました。

未指定文化財は、「江石門割検村帳」等3件を把握していますが、他にも多く存在することが想定されます。

○考古資料

「天辰寺前古墳出土品」は県の指定史跡である「天辰寺前古墳」の石室から出土した遺物です。副葬品として銅鏡や鉄製刀子、また、貝製腕輪を装着した女性の人骨片が発見されました。貝製腕輪はイモガイ製で、左腕に16個、右腕に2個装着されていました。



写真7 天辰寺前古墳出土品

「天辰寺前古墳」と共に、平成25年（2013）に県の指定有形文化財として指定されました。

未指定文化財は、旧石器時代から近代に至るまでの埋蔵文化財包蔵地から多くの出土品が把握されています。今後も発掘調査の実施に伴い、増加することが見込まれます。

○歴史資料

「船大工榑木家関係資料」は、江戸時代に薩摩藩の港が置かれていた久見崎で、船大工を務めた榑木七郎右衛門に関する資料を中心とした文書記録類・差図・道具などからなります。



写真8 船大工榑木家関係資料

資料の年代は、明暦3年（1657）から享和2年（1802）にかけての145年間にわたります。その内容は、藩船建造に

関する許状（伝授書）や寸法書、木割書（秘伝書）などの文書のほか、安宅船・関船・川御座船など船建造のための平面・立面・断面図を含む差図 58 点、さらに実際に使用された墨壺や鉋、手斧などの道具類が含まれています。

特に安宅船の設計図は、明暦 3 年（1657）の作成で、現存する和船の造船図としてはかなり古く、近世の船舶建造技術や軍用船の構造を知るうえで極めて重要な資料です。これらの記録は、藩の政策や造船儀礼の様子を具体的に示すものとしても貴重であり、工芸的・歴史的価値の双方において高い評価を受けています。

本資料群は、平成 7 年（1995）に国の重要文化財に指定され、現在は川内歴史資料館に所蔵されています。

未指定文化財はありません。

## （2）民俗文化財

### 1）有形の民俗文化財

「入来町仲組の田の神」は、宝永 8 年（1711）に建立された石造の農神像であり、県の有形民俗文化財に指定されました。像高は約 71cm、僧形の仏像型で彫られており、肩まで頭巾をかぶった姿をしています。

この像はもともと小萩諏訪神社付近に祀られていましたが、大正 15 年（1926）の国鉄宮之城線の敷設に伴い、現在地へと移されました。この田の神像は、台座に「宝永八年」（1711）と刻まれており、造立年が確認できる例としては鹿児島県で 3 番目に古い田の神像とされています。

そのほか、有形民俗文化財としては、甕島の芙蓉や葛などから採れた繊維を用いて織られた伝統的な織物「甕島の植物繊維衣料」があります。その中でも、形や製作技法などにおいて典型的な 10 点が平成 17 年（2005）に県の有形民俗文化財に指定されました。

これらは木綿や麻が普及する以前の古い紡織の習俗を伝えるものであり、甕島の一部にわずかに伝承されているものです。甕島ならではの自然資源を活用した、地域の生活文化の特色をあらわす貴重な文化財です。

なお、葛の繊維を糸にして布を織る工程は、「甕島の葛布の紡織習俗」として、昭和 45 年（1970）に国の記録作成を講ずべき無形の民俗文化財に選択されました。

未指定文化財は、田の神などの石造物が多く把握されています。

### 2）無形の民俗文化財

「川内大綱引」は、本市で毎年秋分の日の前日に開催される 420 年以上続くとされる伝統行事です。長さ約 365 m、重さ約 7 t にもなる綱を、「上方」と「下方」に分かれて約 3,000 人で引き合います。この綱は地域住民が協力して、当日の朝から半日以上をかけて 365 本の縄から 1 本の大綱に練り上げます。



写真 9 入来町仲組の田の神



写真 10 甕島の植物繊維衣料



写真 11 川内大綱引

慶長年間（1596～1614）に始まったとされ、一説には関ヶ原の戦いの際、島津義弘が士気高揚のために始めたという伝承が残されています。

令和6年（2024）3月21日には、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

「甌島のトシドン」は、本市下甌島に伝わる大晦日の来訪神行事です。トシドンとは日本各地に伝わる年神（来訪神）のことで、毎年12月31日の夜、トシドンに扮した人が首のない馬に乗って高地や大岩、大木などに降臨し、小さな子どもがいる家々を訪れます。30cmほどもある高い鼻と耳元まで裂けた口の恐ろしい仮面とシュロやソテツの葉を使ったミノをまとい、声をかけながら現れます。



写真12 甌島のトシドン

訪れた家の子どもに対して短所や欠点については指摘・叱咤をし、良い点については褒め励まし、歌や誓いを促します。最後に「年餅」と呼ばれる大きな餅を子どもの背中に乗せ、背負って運ばせることで成長と礼儀を伝えます。

昭和52年（1977）に国の重要無形民俗文化財に指定されました。平成21年（2009）にはユネスコ無形文化遺産として登録されました。平成30年（2018）には、「男鹿のナマハゲ」（秋田県）などとともに、「来訪神：仮面・仮装の神々」として拡張登録されました。

未指定文化財は、年中行事や郷土芸能が多く把握されています。

### （3）記念物

#### 1）遺跡

薩摩国分寺は、天平13年（741）、国分寺建立の詔により全国に建立された国分寺の一つです。その跡地である「薩摩国分寺跡」は本市国分寺町に位置しています。昭和19年（1944）に塔跡が国の史跡に指定され、昭和51年（1976）には寺域全体が追加指定されました。



写真13 薩摩国分寺跡

薩摩国分寺の創建は奈良時代末期頃と推定され、寺院は東西118m、南北130mの規模を持ち、金堂・講堂・塔・中門などを一直線に配した伽藍配置であったと推定されています。

発掘調査により瓦や土器のほか、寺院の基壇や礎石などが確認され、伽藍配置の一部が明らかになりました。その後、昭和60年（1985）に薩摩国分寺跡史跡公園として公園整備が完了し、地下遺構は土で保存しつつ、礎石や築地塀、金堂・講堂跡などが復元的に整備されました。

「清色城跡」は中世の在地豪族入来院氏（渋谷氏の一族）が居城とした山城跡であり、本市入来町浦之名にあります。築城時期は定かではないものの、『入来院家文書』の永和から明徳年間（1375～94）の史料に「渋谷清敷殿」（『入来院家文書』169、173、177、186）とみえることから、この時期には築城されていたと推定されます。



写真14 清色城跡遠景

城は標高50～98mのシラス台地上に位置し、シラス台地特有の切り立った空堀や曲輪（本丸・西之城・中之城・物見之段など計16）を連携させた縄張りが特徴です。

城跡は、平成16年（2004）に国の史跡に指定され、平成21年（2009）には指定範囲が拡張されました。

未指定文化財は、寺跡や古城が多く把握されています。